

# 「慰安婦」・朝鮮戦争・植民地近代化論 ソウル大学校名誉教授・安秉直氏に聞く

今西 一 ● 小樽商科大学名誉教授・大阪大学招へい教授

今日、日韓の「歴史認識」の溝は、ますます深くなりつつある。二〇一五年四月七日の『朝日新聞』によると、四月六日、検定基準が変わって初めての検定結果を文部科学省は発表した。そこでは一六年から使われる中学校の歴史教科書で、学び舎のものは、「旧日本軍の慰安婦にされていたと名乗り出た金学順さんについてや、元慰安婦が謝罪や補償を求めたことなどをめぐる記述」は、〇七年に閣議決定に基づく「軍による強制連行を直接示す資料は見当たらない」という政府見解と異なるとして、一度は不合格にされた。そこで学び舎は、「元慰安婦が連れられる図や証言の記述を削除し、「強制連行を直接示す資料が見当たらない」との政府見解を追記」して検定を通過させた。これでも「慰安婦」について中学校の教科書で記述が載

るのは一〇年ぶりのことである。

政府は一九九三年のいわゆる「河野談話」で、「慰安所は、当時の軍当局の要請により設置されたものであり、慰安所の設営、管理及び慰安婦の移送については、旧日本軍が直接あるいは間接にこれに関与した。慰安婦の募集については、軍の要請を受けた業者が主としてこれに当たったが、その場合も、甘言、弾圧による等、本人たちの意思に反して集められた事例が数多くあり、更に、官憲等が直接これに荷担したこともあったことが明らかになった。また、慰安所における生活は、強制的な状況の下での痛ましいものであった」と述べている。この文章は、外務省のホームページに掲載されている。しかも「河野談話」は、「われわれは、歴史研究、歴史教育を通じて、このような問題を永

く記憶にとどめ、同じ過ちを決して繰り返さないという固い決意を改めて表明する」と結んでいる。ところが、現在の小中学校の歴史教科書には「慰安婦」の記述はなく、一〇年ぶりに書いた学び舎の教科書も、「強制はなかった」という注記を付けて掲載を認めている。高校の教科書でも、「慰安婦」の記述は減少傾向にあり、山川出版の『高校日本史B』、清水書院の『日本史B』、明成社の『最新日本史』などには、「慰安婦」の記述がない。このような傾向は、今後の日本史教科書の検定のなかで、ますます増えていくであろう。

ここでインタビューをお願いした安秉直氏は、私の古い知人であるが、日本のメディアでは、「従軍慰安婦」を否定する、韓国のソウル大学の名誉教授」としてよく紹介される人物で

ある。近年も『週刊文春』の二〇一四年四月一日日号に、ジャーナリストの大高未貴氏が書いた、「慰安婦」調査担当「韓国人教授が全面自供」という記事が掲載されている。これは、安氏が九〇年代の初頭に挺身隊問題対策協議会」とともに「慰安婦」一九名の聞き取り調査を行ったが、その証言集（日本語版「証言強制連行朝鮮人軍慰安婦たち」明石書房、一九九三年）は、韓国の反日プロパガンダの「バイブル」として使われてきたが、安氏は「十九人の慰安婦の証言の信憑性について、実質的な『調査失敗』を認めた」とする。そして、「河野談話は、安氏らが調査した慰安婦の中でも証言が曖昧だとして切り捨てられた面々の証言をベースに作成されたものだと思う」と断定して、安氏から「信憑性に欠ける聞き取り調査をもとに発表された河野談話はおかしい」という証言を引き出したとしている（二六頁）。しかし、この大高氏の記事が、いかにインチキであるかは、京都大学の堀和生氏を通して送られてきた、安氏の次の「反駁文」を読めばわかる。

### 反駁文

安秉直（ソウル大学名誉教授）

『週刊文春』四月一〇日号（二〇一四年）に掲載された「慰安婦調査担当韓国人教授が全面自供」という記事は、ジャーナリストの大高未

貴氏が私の発言を歪曲して自分が書きたいことを書いたものに過ぎません。

まず、この記事が書かれた背景からお話します。さる一月一六日、大高氏がある韓国人を介して執拗に面談を要請してきました。それでやむを得ず、「報道しない」ことを前提に会って話をすることがあります。その時の私的な会話がこの記事の基礎資料になっているようです。同じ頃、『週刊文春』からも二度にわたって面談の要請がありました。それはすべて拒絶しました。ですからこの二つの面談要請がどのような関係にあるのか、私としてはまったくわかりません。

次に、私の発言に対する歪曲の事例を挙げます。一、記事では『証言集一』に出てくる元日本軍慰安婦一九名を、私がすべて面談調査したと書いていますが、私はその人々に対する調査資料の検討に全面的に関与はしたけれども、全員と面談調査したことがあると言ったことはありません。二、『証言集一』の調査の際、元日本軍慰安婦かどうかを確認するのが大変だったこと、そしていま再検討してみると、一名は軍慰安婦ではなかったようだと言ったことはありますが、その調査の「実質的な調査失敗」を言及したことは全くありません。三、河野談話は日本軍慰安婦に対する既存の研究と若干の軍慰安婦に対する事例調査に基づくものなので、

日本軍慰安婦の存在を全面的に否定できない限り、事例調査に多少不明確な点があるからといって河野談話を否定することは日本にとつて得策ではないと何度も忠告したが、大高氏は私がるで「河野談話はおかしい」と言ったかのように事実を歪曲しました。事実の歪曲はこれ以外にもたくさんありますが、この程度にとどめておきます。

そして、その日は日本軍慰安婦問題の本質についても多くの話をしました。これまでの研究に基づいて、その日私が提示した日本軍慰安婦問題の本質は次の通りです。「日本軍慰安婦問題の本質は、上海事変（一九三二）から太平洋戦争（一九四一〜四五）に至るまで、日本政府が日本帝国及び日本軍の占領地で多くの若い女性たちを徴集し、日本軍の後方施設である慰安所に留置して将兵たちの性的欲求を処理するための兵站として使用したことである」

二〇一四年四月九日

何より安氏は、二〇一三年に公刊した『日本軍慰安所管理人の日記』（出版社イスプ）の「資料解題」のなかで、「慰安所と慰安婦が日本軍の最下部組織であった」という永井和氏の見解に賛同し（同『日中戦争から世界戦争へ』第五章、思文閣出版、二〇〇七年）、「慰安婦」を「性

的奴隷状態」と捉えても、差し支えないと断言している（日本語訳、一八一頁）。『日記』の日本語は、堀和生、木村幹氏の手によって行われており、落星岱経済研究所のホームページで読むことが出来る（<http://www.naksung.re.kr/x/sepdate>）。この「資料解題」を読むだけでも、大高氏の記事がいかにインチキなものであるかが理解できる。ここで安氏も指摘しているように、従来の「慰安婦」研究では、文献資料が決定的に不足しており、この『日記』の発見と公刊は実に貴重な仕事である。

また安氏は、代表的な「植民地近代化」論の論者として有名であるが、このインタビューを読んでいただければ、その思想的な背景というものも理解できるであろう。「解放」前の朝鮮の生活、朝鮮戦争（韓国では「韓国戦争」と呼ぶ）、戦後の混乱からソウル大学での日々、マルクス経済学・経済史の研究からその離脱など、韓国の知識人の苦悩が赤裸々に語られている。さすがに尊敬する友人の中村哲氏は、「私がマルクス主義から離れていったことに、批判をもっていたのでしょね」と私に言われた一言は、印象的であった。しかし、安氏を批判する人もいるが、ソウル大学の経済学部や落星岱経済研究所で多くの優秀な弟子を育て、日本からの留学生にも実に親切に接してこられた業績は貴重で

ある。私も韓国留学中は、ソウル大学の調査で、安氏や金容徳氏に大変お世話になり、貴重な文献を見ることができた。とてもその学恩には報いていないが、安氏の本音を、少しでも日本の読者に伝えたいと思って、このインタビューを公開することにした。

なお安氏へのインタビューは、二〇一四年二月、大韓民国京畿道果川市において行われた。テープの原稿起こしを徳間一芽氏（広島大学院生）が行い、森亜紀子氏（日本学術振興会特別研究員）が修正を手伝った。

#### 【摘要】

一 本文はふたつのパートから構成される。なお第二部では前後で内容が異なるため、前編・後編に分けた。

二 話し手と聞き手は以下の通りである（敬称略）。なお文中では名字のみを記した。

話し手 安秉直（ソウル大学校名譽教授）

聞き手 今西一（大阪大学招へい教授、小樽商科大学名譽教授）、石川亮太（立命館大学教授）、水谷清佳（東京成徳大学准教授）

三 読解の難解な箇所以外はできるだけ発話内容に忠実に記した。ただし特に読みづらいと判断された箇所は修正し、説明が必要な箇所には随時補足を加えた。

四 用語、人物などについての読み仮名や説明、

および発話のままで理解困難と思われる箇所には補足として（ ）を付した。発言内容と事実が異なる、もしくは不明な箇所には〔編注〕として補足した。挙動を示す箇所には【 】で説明を加えた。

## 〈第一部〉 朝鮮／韓国社会・経済の 変化と安秉直氏の歩み

### 一・導入

一・一 従軍慰安婦の話  
安 今度は何か、慰安婦問題についてご研究なさるといふ話だったでしただけどね。

今西 いえ、慰安婦のことだけじゃないんです。先生のお話をちよつとお伺いしたいと思ひまして。

安 どうして朝鮮人慰安婦が、割合そんなに多かつたか。それを私もちよつと考えたんですけどね。やつぱりこれ【今西一編『北東アジアのコリアン・ディアスポラ』小樽商科大学出版会、二〇一二年を指しつつ】と関係あるんじゃない

かな、という感じがしましてね。

石川 海外移住が多いっていうことですよ。

安 だいたいその、中国と台湾と、移住民の比率を見ますとね、割合、朝鮮人が占める比重が高いんですね。その人たちは、大体移動した人間だったんですから。そこから慰安婦たちがたくさん出てきたかな、という感じですよ。それと、韓国の中で、農村からね、活発に都市に向かって移住する人が多かったです。その中でも都市に人間たちが多かったですから。それがね、割合、朝鮮人の慰安婦の比率が、相対的に高かったという、その原因のひとつになるかな、という、そんな感じをね、これをやりながら感じられたんですよ。

今西 「編注」『日本軍慰安所管理人の日記』（邦題）を」見せていただきましたけどね。

安 実はね、先生にお土産に、この本を差し上げていいかと。

今西 それは大変ありがたいです。

安 持つてるのは、こんなものしかなかったんですけど。ひとつ持ってきたんですけどね。この中の二八頁の一番下に、四三人という数字が出てきますけどもね。これは四二人の間違いです。その後ろに二一名つていうのがありますけども、これは、中国人慰安婦があつて、これを合算して六三だったんですけど、朝鮮人慰安婦は四二人です。これ間違いですから、ちよつ

と訂正しました。先生に差し上げます。

今西 ありがとうございます。

安 それとね、先生になんかお土産に、と思つてね。私が今やつてる仕事の中で、これも私が直接見つけたもんじゃないんだけど、「近代戦史研究会」というね、ここで『女の兵器』ある朝鮮人慰安婦の手記』（金春子著・近代戦史研究会編『北支那戦線…女の兵器』ある朝鮮人慰安婦の手記』浪速書房、一九六五年）というのがあつて。

今西 慰安婦の手記があるんですか。

安 これ、浪速書房株式会社から一九六五年に出たものでね。今日のどの大学に所蔵されてあるかといえますと、国会図書館と、滋賀大学。北海道大学にも、あるそうなんです（編注：国立情報学研究所データベース（OJIB）によると所蔵大学は滋賀県立大学朴慶植文庫、北海道教育大学釧路校）。これ私直接確認したもんじゃなくて、日本にいる私の教え子がいるんです。その人に頼んでみますとね、「三ヶ所、それ、所蔵されてますよ」つて。そんな返事が来まして、私、直接確認したことはないんです。はい。

今西 これ（文献リスト）もお土産です。

今西 ありがとうございます。

一・二 出生と咸安郡にまつわる話

先生ご自身のことと、戦後の韓国の様子のお話とか、そういうことも少し聞かせていただけたら、ありがたいです。

安 いいですよ。何か、お助けになるかどうか、役に立つかどうかは分かりませんが。

今西 いえいえもう、とつても役に立つと思いません。まず、先生のお生まれは何年ですか。

安 昭和一一（一九三六）年です。

今西 何月ですか。

安 六月二十八日ですよ。

今西 どちらでお生まれになったんですか。

安 慶尚南道、咸安郡というところですよ。これはね、どこかといえますと、古代にね、伽耶国があるでしょ。

今西 伽耶国、はい。

安 六個の伽耶がありますけど、その中で安羅伽耶っていうところあるんですけどね。私が生まれて、子供の時にいつもその、住んでる村落からちよつと東側に向かつてみますと、低い、何か丘みたいなものがあるんですけどね。その丘のてっぺんがね、みんな安羅伽耶の墓地なんです。墓地がね、この山の一番後ろ、峰に埋めてあるんですよ。これはね、今度（編注：以前）福井県立大学に私行つ（て）たんですけどね。松岡町（編注：現在の永平寺町）というところが近所にあります、松岡町の後ろにね、その墓地（松岡古墳群）がありますよ。



安 秉直 (안병직 アン・ビョンジク)  
1936年、慶尚南道咸安生まれ。62年、ソウル大学商科大学経済学科卒業、64年、ソウル大学校にて経済学修士。65年からソウル大学校商科大学教授を務め、87年には落星堡経済研究所の創設に関わる。1989年から99年までソウル大学経済研究所長、2001年に退職。02年、福井県立大学経済学部大学院特任教授を務める。06年、ニューライト財団を創立、初代理事長就任。07～08年、ハンナラ党汝矣島研究所理事長。日本語著書は『近代朝鮮工業化の研究』(中村哲・安秉直編 日本評論社、1993年)、『日本資本主義と朝鮮・台湾』(堀和生・中村哲編 京都大学出版会、2004年)など。著作多数。

今西 そうですか。

安 それもね、山のでつぺんに埋めてある。松岡町の教育委員会がありまして、その人たちから聞いてみますとね、そこから出てくる遺物の九五パーセントが、安羅伽耶じゃなくて、慶尚北道に高霊(コリョン)というところがあります。古寧伽耶(コリョガ)だったところ、元々ね「編註・現在の高霊郡のある地域は大加耶。安氏のいう古寧伽耶は現在の尚州市(ソウジュ)にあたる」。あそこと姉妹関係になって、お互いで何か発掘したんですけど、発掘してみますと、九五パーセントが同じですよ、という話だったんですよ。

今西 古代ではそれほど密接だったんですね。安 だから日本海を挟んでね、当時は(朝鮮半島の人)が)移住していたのかな、という。そん

な感じがしました。

今西 そうですね。福井なんかはやつぱり朝鮮文化の影響がかなり強い所でしょうね。

安 今でもね、韓国にね、ペット(ボトル)がね、日本海から流れてきます。

今西 ごみが、流れてくるっていうことですね。安 流れてきますよ。だから潮流がね、船に乗ったら、そつちに吸い込まれる、そんな潮流があった感じがしますけどね。能登半島とかね、あそこに流れついているという話をしよつちゅう、新聞で報道しています。私も直接見たことないんだけど、新聞に載ってました。

今西 継体天皇(在位、推定五〇七～五三二年)が朝鮮から流れ着いて、福井で即位した天皇だという説が古代史でありますからね。

安 ああ、そうですね。  
今西 だからそれくらい、古代は密接だったと思いますよ。

### 一・三 家族について

今西 お父さんはどういう方だったんですか。

安 私のお父さんはね、農民だったんでしてね。その兄弟が三人でしてね。おじいさんが漢文学者だったんです。上の二人は漢文学者として教育しておいてね、一人は何か、家庭を支えなければならぬんですから。うちのお父さんは農民でした。

今西 お母さんはどういう方だったんですか。

安 実はお母さんのうちはね、ずいぶん金持ちだったね。うちのおじいさんが漢文学者として、いわゆる両班(リョバン)だったといわれていますね。身分がちょっと高かったんです。母親のところは、外交官でね。洛東江(ハクドウキョウ)江原道の咸白山(ハムソク)から釜山西側の南海に注ぐ河川。長さは約五二五キロで朝鮮半島の河川中、第二の長さ)を利用して貿易をやつてみたいですよ。そこで金を儲けて、地主になつちやつてね。

今西 商人だったんですね。

安 元々商人だったね。五千石くらいあったといつてただけ、三千石あったかどうか分からないんだけど、三千石か五千石か、その間だったと思いますよ。だからこの母親の兄弟たちは

ね、だいたい日本に留学しましてね。その中の一人が誰かといいますと、姜晋哲（一八九七〜九一年）という高麗大学の国史の先生がおられたんですけど。この二人が兄弟です。この方はね、慶応（大学）卒業だったんです。

今西 お父さんは農業で、どれくらい土地を持っておられたんですか。

安 多い場合には、約一町歩ちよつとぐらいだったと聞いてますね。だけでも兄弟が八人だったんですから。その中で五人が男でしてね。この五人がみんな教育を受けたんですね。その教育のために土地を少しずつ売っちゃって、最後まったくない。土地がなくなっちゃって、貧乏になっちゃったんです。それでどうしようもなくてね。私が高校の時ね、釜山に移住したんです。もう土地がなくなっちゃってしまっ

今西 先生は男兄弟の中で何番目だったんですか。

安 男としては四番目ですね。五人兄弟で、兄弟の中で、一人は大学卒業しなくてね。戦前に、晋州（チンジュ）というところ（が）ありますよ。小さい都市です。晋州の農林学校を卒業した。この後ろの下の四人は、二人は高麗大学卒業してね。二人はソウル大学卒。それはね、みんな語学だったんです。上の二人の兄さんが高麗大学卒業だったんです。その二人の兄さんが高麗大学を卒業して、三星（サムスン）の社員になったんです。今の三

星ね。それでお金をちよつと稼いでですね。私は語学をしませんでしたけど、その兄貴がね、支えてくれたんです。

今西 苦学ですね。

安 苦学。私と私の弟はね、ソウル大学校です。兄貴が支えてましたから。私は楽に生活したでしよ（笑）。そんなに経済的にはね、ちよつと貧乏だったんですけど、僕が食うくらいはあったね。上の二人は本当に語学できた。

## 二・四〇年代の話

### 二・一 四〇年代前期（解放前）

#### ①小学校時代（二）（教育制度）

今西 先生は、小学校はどちらだったんですか。

安 私、郷里のね、咸安郡に面（市や郡に属する地方行政区域の単位）がたくさんありますけど、伽耶という面があるんです。これは六伽耶のひとつで、これの中心だったんです。（さきほど言った）墓地もね、伽耶にあつたんでしたけど。伽耶国民学校つてところですよ。

今西 ああ、もうやっぱり小学校じゃなくて、国民学校になってるんですか。国民学校令が出たのは、日本では一九四〇年ですね。

安 こっちも同じですよ。朝鮮はね、戦前に、朝鮮人学校は普通学校だといってたでしよ。

今西 ええ、普通学校ですね。

安 普通学校ね、一九三八年に尋常小学校に名前が変わったんです。日本人の学校は小学校といって、朝鮮人の学校は普通学校ね。それが三八年か、三七年じゃなくて八年だったと思いきだけね。尋常。日本も尋常ってあるでしよ？

今西 日本は尋常と高等小学校ですよ。

安 尋常小学校に変わってね。それが四〇年か四一年に国民学校に変わるでしよ。

今西 はい、そうです。四〇年に変わります。

安 解放後ね、韓国はそのまま国民学校に。

今西 そうですね、韓国は国民学校が残りますね。

安 どうしてかといいますとね、やっぱりね、韓国はね、発展過程という、国民国家を形成しなければならぬ段階だったですから。まだ小学校という名前じゃなくて国民学校。北朝鮮は人民学校。それがね、韓国が、いつからか分らないんだけど、国民学校、これじゃいかん、と

今西 韓国は初等学校ですね。

安 小学校にしようか、初等学校にしようかね、議論があつたんです。やっぱり同様の伝統（編注：これまでの慣例）ですと、小学校ですよ。小・中・高・大学だったんですけど、日本はそれを引き継いで小学校という。韓国人はね、日本と同じことしたくないというね、そんな感じだったでしよ。これはもう「我らは初等学校にしま

しょう」といって。何年からだったかは分からないんだけど、今は初等学校になってるでしょ。

今西 そうですね。ところで先生は、昔の儒者の学校みたいなところは全然行かれなかったんですか。

安 いえいえ、私は通ったことない。直接、国民学校に入っちゃったんですね。

石川 書堂ですよ。

今西 書堂に。

安 書堂ですか。書堂行ってもね、だいたい小学校だとかね、普通学校通じて。あと中学だとか。それはどうしてかといいますとね、韓国の教育制度を設けたのは、日本でしょ。それが義務的、段階的になってくるんです。段階を終えないと絶対、上に上がれない。そうなってますから、学校でよく勉強して知識があったとしても直接中学には行けない。もし中学校に行きたくていたら、何か、資格試験というのがあったみたいです。そこで受かったら、中学に入学する資格が得られると。そのような制度だったみたいです。これはまったく日本の制度だったんですから。

今西 小学校の教育は完全に日本語で、(担任の)先生は日本人の教師だったんですか。

安 いや私はね、四三年に小学校入ったんですけど、その時もう既に、朝鮮語しゃべったら処罰されました。日本語でしゃべらなくちゃだ

めでした。

今西 その時の小学校の先生は日本人だったんですか、朝鮮人だったんですか。

安 あ、朝鮮人でした。その当時は、うちのお姉さんもね、小学校卒業して、兄貴もみんな学校通ってましたから。うちでは、日本語で生活できるくらいの日本語ができてね。いっぱい話しましたね。日本語、親は通じませんでしたから。

今西 お父さんとお母さんはそうですか。ハンブルだけですか。

安 お父さんとお母さんは韓国語でしゃべって、兄弟の間では日本語でしゃべる。しゃべるくらい。だからね、私は、小学校入る前からもう日本語少し知ってました。そうですから、小学校、国民学校入ったらもう、日本語で生活できるくらいだけど、うっかり朝鮮語をしゃべっちゃうんですね。その時はもう、処罰されるんですね。

## 二・二 四〇年代前期(解放前)

### ②小学校時代(二)(学徒動員、供出制度)

今西 学校の教育内容っていうのはどうなんですか。もう戦争の末期ですけども。

安 いや、あれがもう、小学校一年か二年くらいでしたから、もう教育の中身がどんなもんか、ちよつと覚えてないんですけどもね。

今西 国語はどうでしたか。「進め進め兵隊進め」とか。

安 あんまり(記憶に)残ってないけど、「モウモウ牛が鳴くんぞ」とかね。国語(日本語)は覚えてないし、はつきり。やつぱり、小学校でも少し習ったんでしょうけども、そんなに勉強した覚えは今ね、頭じゃないんです。その時、勉強もしたんですけども、総動員の時ですよ。そうですから、学徒動員というのありましてね。学徒動員で動員されたりね。

今西 小学生も動員するんですか。学徒動員はもうちよつと上じやないのですか。

安 いや、小学校もみんな、その時はね、むちゃくちゃ! もう小学校も、普通のね、農民もね、みんな動員されるんですね。同時に、モンペという、女性のね。そんなのみんな着てね、動員される。だからね、ものすごく社会を組織(的に動員)してね。今、文献を読んでも、そんな文献もたくさんありますけどね。実際私もね、ずいぶん動員されましたね。山に行つて、薪を拾つて。

今西 そういう仕事をさせられたんですか。

安 そうでなければ、日本は特に油がなかったんですよ。だから松の木から油をとって、そんな作業もやるでしょ。そんなことやったり、そんなもんでしたね。勉強したという、覚えもあるんだけど、動員されて、ずいぶん(山に)上

がったという、そんな感じが強いんですね。動員されたって、きつい仕事というのは別にないんだけど、なんか遠いところまで歩いていたり、肩に重いもの乗せたり、やりました。それとね、もうひとつ記憶に残ってるのは、四四年くらいだと思っただけ、四四年、四五年は本当にね！食べ物がない、腹減っちゃってね！どうしようもない。

今西 日本本土でもそうですからね。

安 文献を読んでみますと、朝鮮にいる日本人は、日本にいる日本人よりましだと。そんな記録もたくさん残ってます。朝鮮人はね、うちは、どのくらい収穫あったかなあ。約六〇石くらいあったんですかね。そこからね、税金を出したり、それをね、小作料を地主がとらなくて、国家がとつたんです。国家がとつて、地主に配つた。その制度に変わったんです。ですから、国家が税金と小作料(を納めさせる)、供出という、あれでしょ。

今西 ええ、供出です。供出制度ですね。

安 供出したんですね。約九〇パーセントくらい。まあ九〇パーセント以上かもしれないですね。私の記憶ではね。

今西 ほとんど全部出さないとけない。

安 収穫してね、その直後はね、そこにいっぱい、粃ですか。それがいっぱい。その翌年の春でしたかね。二石か、三石か、それしかないん

です。みんな出してしまつてね。それで、農民たちは、みんなもう出してしまつたら、食べるものがないんだから、二石か、三石か、そのくらいはね、どこかね、隠しておくんですね。

今西 闇米ですね。

安 ええ。それを探し出すためにね、面長の役人だとか必死だったんです。まあ、そんな地域だったんです。うちはちよつとマシですから、なんかなくなつたんですけど。貧乏人たちはね、本当に食べ物がない。何かその、子供はね、アフリカで食べ物がない、こうやって、死ぬ人いるでしょ。

今西 栄養失調ですね。お腹だけ出てきて。

安 一人か二人くらい、そんな人たちが出てきてましたね。

今西 餓死者が出たわけですね。

安 私の目で見ましたから。だから戦争がもうちよつと、長引きますとね、私もどうなつたか分からない。そんな感じで。

今西 餓死しますよね。

安 ああ、腹減つて腹減へつてどうしようもない！ そんなでしたね。

今西 空襲とか、そういうのはなかったんですか。

安 それは、そうでもなかったんじゃないかな。

朝鮮は一切なかったんじゃないですかね。

今西 朝鮮はほとんど空襲はないですか。

安 空襲されたという、何か、そんなこと聞いたことないですね。

## 二・三 四〇年代中期(解放直後)

①解放直後の様子、町の日本人について

今西 それで、八月一五日のいわゆる「光復」というか、朝鮮にとつての「解放」ですよ。日本では「敗戦」になるんですけど。その時、玉音放送なんかは、やつてたんですか。

安 いや、放送やつててもね、当時はうちの農村までは、ラジオだとかそんなものなかったんですから、聞くことできないんですね。とりあ

えずもう、電気も入らなかつたんです。川で泳いでますとね、何か、訓練をした人たちがね、何か、当時訓練する時、本当の銃じゃなくてね、木刀ですか。それを持って訓練するんです。本当の銃は…。

今西 銃はないでしょ、戦地でも足りないですから。

安 そうですか。それを持って、「ばあーつ」と「解放だ」とね。うちの村にも駆け込んでくるんですよ。「解放」って何か、分かるはずがないでしょ。ちよつと、自ら出てきて、邑(市や郡に属する地方行政区の単位のひとつ。「面」と同位であるがより都市的形態を備えている)に出て行つてみますとね。人がたくさん集まつてね、もう「解放だ」って。そこで韓



国の「ケンガリ」（韓国の民俗音楽で使用する真鍮製の打楽器）つてあるでしょ。ケンガリだとか「ジン」（韓国の民俗音楽で使用するドラのような打楽器）だとかね、それを「ばあーつ」と鳴らしながら、やったんですよ。その時にちょうど、伽耶の邑（編注・伽耶が邑に昇格したのは一九七九年でこの当時は面であったが、邑を行政区域ではなく「町」の意味で使用していると考えられる）にはね、アスファルトが（敷かれた）。その時期、戦争の時期だと思いますね。それは記憶がはっきりしないんだけど、アメリカ人が入ってアスファルトができたか、戦時中にアスファルトができたか、それははっきりしないんですけど。人がたくさん集まってるね、解放の喜び。

今西 その村には日本人はいたんですか。全然いなかっただですか。

安 ええ、全然、いませんでした。

今西 じゃあ日本人が逃げて行くところか、帰るところとか、見てないわけですね。

安 いや、邑にはね、商業やってる日本人は何戸かあった。その邑で商業やってる人の中で、「コウダ」っていう人がいますね。うちの母親とコウダ家の奥さんと一緒に親しい関係ですてね。非常に。

今西 仲良くやってた。

安 うちの母親がね、私を連れて、コウダさん

の店にね、行ったりしたんですから、記憶に残ってますね。母親と、コウダさんの奥さんと一緒に親しい関係で、いつも私に「いい人ですよ」と、説明したり。その人はね、割合、伽耶の邑では、評判だったんで、うちだけじゃなくて、他の村の人もね、そのコウダさんを記憶している人がいますね。今ね、私の先輩の中でね、そんな記憶を思い出して、最近もしやべった人がいます。「ああ、コウダさん、いらつしやった」と。今西 そのコウダさんというのは、どこから来られた方とか覚えておられますか。それは無理ですか。

安 それは全然分かりません。そうですね、解放直後はね、伽耶の邑ではね、日本人でひどいことした人は、いなかっただですか。むしろ、日本に日本人が帰るときね、歓送ですか、そういうのやっただですか。

今西 子供時代には、日本人が、朝鮮人とぶつかりあつてるところとか、あんまり見たことなかったんですね。

安 私が直接見たことはないんですね。

## 二・四 四〇年代中期（解放直後）

### ②教育の変化について（一）

今西 その後、戦後は学校が変わって、まあ名前は国民学校のままだったんですけど、国民学校にずつと行っておられたわけですね。教育内容

はずいぶん変わるわけですね、もちろんがらつと。日本語をまず使わなくなりましますね。

安 戦後ね、変わったことの記憶は、教育の中心は、変わったというところは何かといいますと、やっぱり戦前は、日本の、何ですかね、日本の、民族主義だとか、日本的なもの。それを強調しましたね。その中でひとつ記憶に残ってるのは、二宮尊徳、当時では二宮金次郎だといつてましたけど。二宮金次郎の銅像じゃなくて、岩で作った、銅像みたいに作るでしょ、薪を背負って。そういうのが小学校の教室の前にね、「ぼんつ」と建ってました。

今西 日本のどこの小学校にも建ってましたね。

安 そうですか。

今西 ええ、日本中全部建ってました。

安 それで、小学校に入った時ね、東の方に神社がありますね。神社があつて、入る時は必ず、並んでね。今の日本でもそうでした。私が、福井に行った時ね。韓国人は並んで入るとかそんなこと、今でもしないんです。自由に入っちゃうんですね。『だあーつ』と並んでね、「まわれー右！」といつてね、挨拶するんです、神殿に向かつてね。

今西 そこに奉安殿はあつたんですか。

安 いや、神社があつたんですけど、神社の中に何があつたかということは、記憶がないんですけど。

今西 日本の小学校だと奉安殿というのがある、そこに明治天皇の写真、御真影と、教育勅語がだいたい入ってて、通る時に最敬礼するっていう、そういう形をとるんですけど。

安 ええ、それでね、最敬礼やったり、そうやってんですけど、やっぱり何をやったかということまでは、覚えてない。

今西 多分奉安殿だと思いますけどね、どこでも作ったと思うんですけどね。

安 そこでね、変わっちゃったのが何かといいますと、教育の雰囲気だね、アメリカ式になったんですね、染まった。「自由」だということね。

今西 デモクラシー、民主主義という。

安 それとね、雰囲気が違うんですね。やっぱり、戦前はもう、「規則正しい、人間の生活」だとかね。何か緊張でね、生活しなければという。小学校、学生の時もそうでしたけど。戦後は非常に、自由にね、秩序がないといったら、秩序がなかったといわれるかもしれませんけども、自由になったということ。それともうひとつ、変わったのはね、クラスが急に、増えたんでしてね。元々はクラスがふたつしかなかったんですけどね。戦後、クラスが七つに増えちゃったんです。それやっぱ李承晩の祖国教育の強調。そのふたつが、変わったという感じがしますね。

## 二・五 四〇年代中期（解放直後）

### ③アメリカ軍の有無、親日派への処遇

今西 日本みたいにアメリカ兵が直接村へ来るってことはなかったんですか。

安 アメリカ兵が村に来たのは、やっぱり朝鮮戦争の時ですね。

今西 朝鮮戦争ですか。

安 その前までは全然そんなことはなかったんです。アメリカ軍。やっぱり、伽耶の邑まで来たかどうか分からないんだけど、そこまでは分からないんだけど。車乗って通ったか、それは分からないんだけど、村までは入らなかったね。村まで入ったのは、やっぱり朝鮮戦争の時。あそこ、私の村も戦地だったんですから。その時はアメリカ兵がおったよ、たくさん村に入っちゃって。

今西 日本だとアメリカの単独占領という形をとるから、日本の場合は町村をまわってますね。安 そうだったんですか。

今西 占領軍は、だいたい市町村、役場を巡回して、駐留軍としてやってきますからね。

安 それ違うかな、という感じがします。韓国の場合にはね、邑くらいはもう、道路があるんですよ。車が通る道路。そんなものがあるんですから、道路に、アメリカ軍のジープですか、それが通ったという感じはしますね。それくらいでして、何か、韓国に駐屯したという記憶は

ほとんどないですね。

今西 日本の場合はもう教育改革から全部、アメリカが主導するから、学校にも直接乗り込んで来たり、調査に来たり、いっぱいしますけどね。安 いや、私の記憶は、学校で米軍見たとか、そんな感じはないですね。

今西 占領によって古い指導者たちが変わるってことはなかったんですか。日本軍に協力した人たちについてのはどうだったんですか。

安 特にね、日本人に協力したっていうのも、圧迫されたりね、そんなことがね、当時に、面だとか郡にね、何人かはね、戦前植民地の時に酷いことやったという、批判というのはありました。それも私、聞いた覚えがありますけどね。そのくらいはあつたんですけども、特に「あの人は親日派だ」とかなんとかね、そんな話が出てこなかったです。もしね、その時の親日派が誰かという、探し出すとね、みんな親日派ですからね（笑）。

今西 それは、そうなんですよね（笑）。

安 私の感じではそうなんですよ。だから植民地期に役人として酷いことをやっただと、評判が悪い人間とかそんな人はいましたけどね。特に、聞きだして圧迫したり、探したり、そんなことは記憶にないですね。

今西 学校の先生でもクビになったりとか、そういう人はいなかったわけですか。先生が代わ

るとか。

安 記憶にないんです。むしろね、先生が足りなくて。

今西 そりや大変ですね。そりやクラスがそれだけ増えたら足りない(笑)。日本だったら、戦犯だとか、辞めさせられるって人が結構いたんですけどね。

安 ああ、そんな記憶はないんですね。

## 二・六 四〇年代後期(解放後)

### ①教育の変化について(二)

今西 アメリカ式の教育が入ってきて、デモクラシーということが言われるようになったわけですね。

安 教育の中身は今ちよつと頭にはないんですけどね。やつぱり、日帝(朝鮮植民地)時代の教育と、新しいアメリカ式の教育は混ざってる感じがなかったんですか。

今西 そうですか、まだ。

安 その九九だとかなんとかね、そんなところは、日本式ですね。

今西 算数はあんまり変わらないでしょうけどね。

安 その頃日本式でしたね。やつぱり、李承晩が、アメリカの文化を取り入れたんですから。「自由」という概念ですか。それはずいぶん入りましたね。それはアメリカ式じゃなかったか

な。

今西 教科書はどうしてたんですか。例えば日本だと、軍国主義に関わる文は全部墨塗りにして、生徒自身が墨で塗って、消して、それで教科書を使ってみました。

安 こつちはね、教科書がどうだったか今、はっきり覚えがないんだけど、みんなハンダに変わっちゃったんですよ。だから日本の教科書はもう、ほとんど使わなかったんですけどね。その、小学校の高学年の人たちだったかね、中学卒業の人たちは、ずいぶん戦後も日本の書物をもつて、勉強したりやってみました。そうやらないとね、読み物がありませんから。本がないんだから、そんなことやったんですけどね。私はね、ずつと、仮名くらしい読めるところですね、もう日本の教育が終わってしまったんですから。私はもう、日本の書物をほとんど読んだことないんですね。そうですから、こつちにね、大学に進学して、大学院に進学して、「韓国近代経済史を専門にしようかな」と思ってたね。その時も、韓国でできている書物だけではね、研究できないんですよ。それと、英語も少し習ったんですけど、読むには楽ではないんですよ。それと韓国近代史ですから。そうしますと日本語覚えなきゃならないんだから、日本語ずつと覚えたいですね。十日ね、勉強したら、すぐね、日本語すらすらつと！読めてしまいました。

今西 天才ですね。

安 周りの人間からも、「おお、その頃天才だった」と言われました。私の先輩がね、言ったんですけどね。

今西 天才ですよ、十日で覚えられるなんて。

安 天才だとか何とか、そんなこと全然なくて、子供の時覚ええたね、この教育ね。これね、大きいな！という感じです。そしたらね、仮名を覚えて、漢字はもともと知ってるんですよ。それで戦前、日本語で生活したこともあるんですから。すぐね、「ばあーつ」と読めるようになって(笑)。

今西 いや、それにしてもすごいですよ、やつぱり。普通十日とはいかないです。

安 私のね、教え子たちはね、学生運動やってる人たちはずいぶん、日本の書物、読まなくちゃいけなかった。もう、マルクス主義だとかそんなこと。

今西 マルクス主義が勉強できないですからね。

安 勉強ができないんだから。その、私が教えた学生、私よりもつと頭がいい人たちなんだけど、最低、三ヶ月か五ヶ月くらい経たないと、日本語読むことができなかつたんですよ。

今西 そらそうですよ、三ヶ月、五ヶ月でもすごいんですよ(笑)。

安 漢字がありますから。

今西 いや、それにしてもね(笑)。

安 漢字で教育受けたんですから。私はね、十日で「ぱーつ」と。その差が、どこにあったかというところ、それやっぱりね、小学校二年まで通ったということね。それと、うちでは、日本語で生活したっていう。

今西 子供の頃に日本語習ってたっていうのは、大きいですよ。

安 その影響でしてね。最初私も分からなかったんですよ。ほんとに私「天才かな？」って思ってたんですよ。いやあ、その後、よくよく考えてみますとね(笑)。

## 二・七 四〇年代後期(解放後)

### ②海軍少年学校時代

今西 小学校は卒業されて、すぐ中学校に行かれたんですか。

安 いやいや、私はね、貧しい家庭だったんですから、中学校まで入るお金がなかったんです。そうなんです、どうしようもなくて、小学校六年の後半期にね、海軍小学校：海軍とか、なんと言ったか：海軍少年学校というのがありましたね。それは公立だとか国立じゃなくて、当時には私立だったんでしてね。

今西 私立で作ったんですか。

安 ええ、私立でね。日本の制度を学んでね。日本から教育を受けた人が、そこに(教官として)入ったんです。入って、六ヶ月くらい少

年学校通ったんですかね。そこで朝鮮戦争が勃発してしまつて。

今西 海軍少年学校っていうのはどんな教育をするところなんですか。出たら本当に海軍の兵隊になるんですか。

安 そうですね。そこを卒業したら海軍の兵隊になるんだとか、そんな話でしたけど。それがね、私が入って六ヶ月経って、その海軍小学校が朝鮮戦争で解散してしまつたんです。

今西 解散してしまつたんですか。

安 解散してしまつて、もうどうしようもなくて。釜山でね。

今西 釜山にあつたんですか。その小学校は、どういう人が作つたんですか。

安 いや、分からないんだけどね、やっぱり戦前にね、そのあたりの(海軍の)教育を受けた人たちじゃなかったんですかね。それとその当時ね、私の二番目の兄貴が、釜山の慶尚南道の道庁に勤めたんです。(彼は)小学校、中学校三年までしか、教育を受けなかったんですけど、製図の技術がありまして。道庁の公務員として勤めていたんです。そんな関係もあつて、私、少年学校に入つたんですけれどね。

## 二・八 四〇年代後期(解放後)

### ③政治家(特に李承晩)について

今西 ちよつと朝鮮戦争の前に、李承晩(一八七五〜一九六五年。大統領在任…一九四八〜六〇年。大韓民国初代〜第三代大統領)時代というのは、李承晩がアメリカの支援で大統領になるわけですよ。だけど、社会が非常に混乱するでしょ。相当、激しい反対運動も起こつてくるし。それから統治のやり方に対して周りで運動はなかったんですか。そういう激しい対立とか運動、村の方ではあんまりなかったですか。また、それを釜山で経験されたことはないですか。

安 どうでしょうかね。当時色んな政治派閥間で争つたみたいだけど、その影響がね、農村まではあんまり来なかったんです。それと李承晩というのは、圧倒的な人気を持つてたんです。李承晩に比較したとか、競争できる政治家というのが、当時はね、あんまりなかったんじゃないかな、という感じがしますね。

今西 早死にした金九(一八七六〜一九四九年。終戦前後には大韓民国臨時政府主席を務めた。四九年に暗殺される)だとかはどうですか。

安 いや、金九くらいじゃね、絶対李承晩とは比較にならないね。

今西 比べものにならないですか。李承晩は、そんなに人気があつたんですか。

安 圧倒的にね、李承晩。どうしてかといますとね。李承晩は、三・一運動(高宗の死など

を契機として一九一九年三月一日から数ヶ月に渡って朝鮮全土に広まった独立運動)の時からね、臨時政府がソウルでも漢城臨時政府(一九一九年四月二三日にソウルで樹立)というのができてね、上海でもできて、満州でもできるでしょ。

今西 上海臨時時代もありますね。

安 そこでみんなもう、大統領は李承晩です。だから李承晩がね、植民地期以前から非常に圧倒的な人気があったみたいなんです。それで、解放直後もね、やっぱり圧倒的な人気だったんでしてね。当時政治勢力として一番強かったのは、東亜日報(金性洙が一九二〇年に創刊した朝鮮語紙)グループだったんですよ。金性洙(一八九一〜一九五五年。独立運動家、言論人、実業家。第二代大韓民国副統領)グループ。韓国民民主党(一九四五年九月結党の保守政党)。国家議員も圧倒的にそっちが多かった。それと金九の勢力。韓国独立党(一九三〇年結党。戦後は臨時政府要人が中心となって統一政府樹立を主張)を立てた。そんなこともあって、国会議員としてはその人たちが圧倒的だったんですけど、選挙すればね、李承晩が大統領になるんです。それがね、同時に李承晩が占めているね、政治的地位ってのは圧倒的だったんでしてね。

今西 共産党なんかはどうだったんですか。金

日成(一九一二〜一九四〇。朝鮮民主主義人民共和国を建国。一九四八〜七二年まで最高指導者)なんかは。

安 金日成というのは、神話の人間だったんですから、圧倒的にね。金日成は神話になっちゃって。やっぱりね。それは普天堡(普天堡の戦い。一九三七年六月四日、金日成らに率いられた抗日遊撃隊が当時の威鏡南道甲山郡普天堡を襲撃した戦闘)というあそこ、一九三七年に何か戦ったんですよ。

今西 間島(現在の中国吉林省東部の延辺朝鮮族自治州)パルチザンです。

安 それ以降神話の人間になっちゃったみたいですよ。だから、金日成だといったら、年取ってね。

今西 老人だと思っただけでしょう。

安 老人みたいなんだと、韓国人は記憶しているんだけど。実際は若者でしてね。

今西 ソ連が彼を作ったという話もありますけどね(笑)。

安 そうですね。北の金日成はソ連が作って送ったという話もあるんだけど、私の調査によりますとね、それは全く嘘でして。金日成は本物です。それは間違いない。私の感じでは。私の調査ではそうなんです。まあ先生の調査ではどうなってるか。

今西 いやいや、三人いたという話もあるんですけど。

安 何人かいたとか、五人だとか六人だとか言ってるんだけど、私言ってるのは、その人たちに言ってるのは、昔からね、いや、「もしいたとしましたら、文献でも出してください」と。出すことできないんです。文字、一言だとか、そのくらいですよ。だから、これでは絶対に、事実の人物としては確認できないでしょう。

資料上は、事実の人物として確認できる人は、この人しかない。私はね、元々から金日成は本物だと言ってたんですから、非常に危なかったんです。いや、「君は金日成を支持するのか」と。今西 支持するわけじゃない(笑)。

安 当時は私も、共産主義者だったんですから。今西 それは、当時は多いでしょう。

安 ソウル大学を追い出される危険も、たくさんあったんですけど、私はそんなところで譲歩したことはないんです。事実が事実だと、私は。だから、当時はね、韓国人の中で、約九五パーセントはね、今の金日成が事実(実物)だと認めた人ほとんどいないんです。今でもね、約半分くらいしか認めていないんじゃないですか。

今西 そうですね。

安 だけだね、それを本当に確認できるんでして、実際その人しかいないんです。文献を調べてみますと。

(ところで、)李承晩というのはね、やっぱり私も非常に強く批判していたんですけど、もの

すぐく政治感覚が、突飛な人でしてね。あの人の政治思想というのはね、私は今はずいぶん評価しますけれど。(その理由は) ふたつだと思っただけです。ひとつは何かといいますと、「自由民主主義じゃないと、絶対いけない」と。これは私ね、非常にね、高く評価するんです。どうしてかといいますとね、最近私とその影響で人間が変わってしまったんです。まあそのように評価するのだけどもね。根拠が何かといいますとね、どのような伝統社会の色んな文献、書物を読んでみてね、「自由」という文字は、ただ一文字もないんです。私が読んで中では。もし(今西)先生にも(文献を見た中で) あつたら(教えてください)。

今西 「自由」は日本では、福澤論吉たちが作った、日本の和製漢語です。

安 そうですか。それも正しいと思いますけどね。

今西 そして、それを中国だとか韓国に輸出したという。

安 近代に入つて世界の土地でも、近代に入つて「自由」というのが一番重要な価値になったと思うんだけど。西洋はね、アリストテレスだとか(ギリシア) 正教だとか、あそこも「自由」という文字はあるみたいだけど。東洋はね、実は一文字もない。だけどもね、「平等」という概念はね、東洋の思想にはいっぱいなんです。だ

からね、チヨンギョ丁若鏞(一七六二—一八三六年。実学者)も政治の本質が何かと。「均民」だ。民を均等にする、「均民」だ。やっぱ、これが私、東洋政治思想の根つこだと思っただけで、これが日本も韓国もね、中国もみんな同じと思っただけ。それを支えるひとつの制度が、井田(中国周代の理想的な土地制度とされるもので、私田を各戸に均等に配分したとされる)ですね。井田という。

今西 そうですね。まあ、孟子なんかがそうですね。

安 孟子も井田です。それは、九つの区域に区切つてね、ひとつ、きちんときちんと、振り分けるんですよ。みんなそれが、主な思想なんです。李承晩は、韓国の伝統思想に非常に強い人間です。元々漢字、儒教を勉強した人ですから。そこでこの人アメリカに行つてね、「自由」というのは何かということ、この人は自覚したと思います。それがひとつ、この人の考える突飛な(ところ)。金九だとか、そんな人たちは全然そんなのではありません。全然政治家じゃないしね。思想家でもないしね。ただの、反抗的民族主義、それでしてね。李承晩はそんなこと一切ない。民族主義的なところはあるんだけど、反抗的民族主義じゃない。

ふたつ目は何かといいますとね。植民地の問題はね、政治的に、国際協力の中で解決できな

ければダメだと。それはもう、外交論なんです。これをね、私、(彼は) 非常に優れたね、考え方を。実際ね、戦後、韓国ができたのは、実は外交なんです。韓国の内側から、近代化ができる原動力があつて発展したとは、とても思われない。何か外側からうまく、外交してね。外側から、その原動力がどんどん入つてきて、それを韓国人が自分のものとして吸収するくらいの能力はあつたと。それさえなかったら、近代化できないですよ。それができないのが東南アジアだとか、アフリカだとか。それはね、外側には、近代化いっぱいあるんだけど、自分のものでできない。これはね東洋、中国だとか韓国は伝統社会の発展水準が高かつたんですから、それを自分のものとして吸収するくらいの力はあつたと。

それをね、私に対して、「どうしてでたらめにそんな仮説ができるのか」と、(人が) 私に聞くんだけどね、私いつもこう言ってるんですよ。「毛沢東と鄧小平と比較してみなさい」と。毛沢東がうんとね、大きな人物ですよ。だけど毛沢東の時はね、中国の貧困をね、解決できなかった。どうしてか。発展の起動力をね、内側から探し出すのに必死だったんですよ。だからこの人、ダメ。鄧小平はね、「改革開放」(一九七八年から実施された市場経済体制や対外開放を取り入れた経済政策) だったんですよ。そこ

で開放というのはね、これが非常に大事なところ。発展の動力を外側から取り入れると。そこで中国は爆発的に発展してしまっただけ。私の仮説のね、根拠はそこにあつたと、私はいつも韓国人にそのように説明しますけど。

今西 世界資本主義のキャッチアップですね。安 キャッチアップ。それだと思っただけ、やっぱり李承晩がね、あれがうまかつたね。

今西 キャッチアップがね。

安 やっぱり李承晩がアメリカとね、なんとか開国つていうね。軍事同盟。アメリカ人はね、軍事同盟やりたがらなかつたんです。実はね、アメリカ人がね、低開発国とね、軍事同盟を結んだのは韓国が唯一の例外なんです。(普通は)結ばないんです。それをね、できるように引っぱつたのは、李承晩だった。だからね、李承晩てね、恐ろしい人間。

それと朴大統領(朴正熙<sup>パクチョンヒ</sup>：一九一七〜一九九九年。大韓民国第五く九代大統領。在任：一九六三〜一九七九年)も完全に親日派でしょ。日本で教育を受けた人なんですよ。

今西 元は日本の軍人ですからね。

安 日韓の条約、「ばあーつ」と解決して、交流したと。やっぱりそれがね、戦後韓国のね、発展の原動力じゃなかつたかなという。だから私今、すごい批判されてます。私もう散々親日派(笑)。批判されるし、そう言われるんだけ

ど、私はそんなに、親日派として批判されても、構わないと思ってるんでね。いや、私は権力者じゃないんだから。得るものがないんですよ。私が日本人からね、見返りを得るといふね、それぐらいの、私ね、力を何も持っていないんだから。そんな人は絶対親日派になれないんですよ(笑)。得るものがないんだから。

### 三・五〇年代の話

#### 三・一 五〇年代前期(朝鮮戦争期)

①当時の状況、村の様子、疎開時代

今西 先生はそこで、朝鮮戦争を経験されたわけですよ。

安 そうですね。

今西 じゃあ、その時は、釜山におられたんですか。

安 いやいや、私、村にいたんです。

今西 村におられたんですか。

安 釜山でね、そこで海軍小学校が解散しちゃつたんですから、郷里に戻つたんです。

今西 郷里に戻つておられたのですか。

安 そこでも、戦争、戦線が、だんだんだんだん南に向かつて。

今西 ソウル市内は、三日ぐらいで占領されてしまいますよね。

安 いや、私の郷里まで、戦線がね、下りてく

るのには、約一ヶ月半ぐらいかかったと思っますね。

今西 ソウル占領が早かつたですよ。三日ぐらいでもうソウル市内が落ちてしまいましたからね。

安 いやソウルはもう、三日ぐらいで入っちゃつたんですけど。そこがね、金日成の戦略が間違つたということじゃないですか。そこね、ソウルを占領する、速攻でね。「ばあーつ」と釜山までね、攻め込んだら、戦争ばつと終わっちゃうんだだけ。そこでもう金日成がね、「いやいや、そりや危ないんだから、少しづつ、準備しながらやりましょう」つて。一ヶ月の時間を、アメリカに与えてしまつたんですね、アメリカは準備する。これでいけると。これ金日成が一番間違つた戦略をとつたと、今言われてますけどもね。正しいかどうか分からないですけど一ヶ月半ぐらい(時間がかかつてしまった)。

今西 遅らせたのは、なぜなんですか。アメリカや世界の動きを見ながら動いたんですか。それとも統治する時に、時間かかつてしまったんですか。

安 いや統治ね。少し占領して、基盤を、何かこう作つて、占領して。このようにやろうと思つたみたいですよ。金日成戦略はね。

今西 そうすると中国方式で戦争してる。「人民解放軍」方式ですね。

安 それが、どうしてそうなったんですかね。やっぱり兵站の問題（ですかね）。

今西 兵站ですかね。

安 あんまり知りませんがね。兵站はね、その人（金日成）たちは、兵站を現地で求めるっていう。そんなところは、日本も戦前（同じだった）。

今西 日本も戦前そうですね。中国戦線以降では、確実にそうですね。

安 兵站を現地で求め（ようとす）ると、占領して、ちよつと時間が経たないと、そんなことできないんですよ。

今西 動けないですよ。

安 それと関係するんですかね。私も戦争についてほとんど分らないんですから、分からないんだけど、それとも関係するかもしれませんね。占領して基盤を作って、そこを基盤として、占領するという。段階的にやるね。何か、分かりませんがともね。

今西 略奪とか、人民裁判とか、そういうこと、そこでやったんですかね。

安 いや、人民裁判はそこでやったんですけどね、略奪はほとんどなかったんです。

今西 略奪はなかったんですか。

安 ずいぶん評判がよかったです。

今西 よかったんですか。

安 ええ。「人民の代わりに立つ」と。そういう原則があつて。人民からも人気が非常にあつ

たんですね。（ただ当初は人気）あつたんですけど、やっぱり、人民裁判がありました。あそこで、人気が非常に悪くなったんですけど。

今西 八路軍（中国共産党軍の通称）も一緒に来たんですか。人民解放軍も一緒に来たんですか。

安 いえいえ、その時はね、全然。

今西 まだ北だけですか。

安 中国の人民解放軍が入つて来なかったんです。

今西 北だけの軍隊ですか。

安 北はね、その時中国からたくさん援助をもらつたんですよ。ソ連からも援助をもらつて、特に、それからは、飛行機とかそういうのを援助されたんですよ。

今西 ええ、ソ連の飛行機は有名ですね。

安 それで、軍隊はまったく、朝鮮人民軍だけでしてね。朝鮮人民軍というのは、それだけ人数が足りないんですよ。そこから、何か、自分が占領した南の人たちを、兵隊に入れて、そこで、軍隊のちよつと、数を増やした。

今西 補充をしたんですか。

安 ええ。そのために、何かちよつと時間がかかったかもしれないけど。

今西 元々兵力が少なかった。

安 ええ。それか、どうしてそんな戦略をとつたかというのは分からないんですけど。

今西 それで、一ヶ月くらいして（安先生の郷里にも軍隊が）来たんですか。

安 一ヶ月半くらいして、全羅道の方を回つて、晋州、私の郷里に来るんだけど、私の故郷は、馬山マサと近いんです。馬山と約一〇キロくらいあるかな。馬山には軍港があるんですよ。海軍の軍港があつて。

今西 ええ、ありますね。

安 そうですから、私の郷里から馬山を経由してね、そこで、鎮海ジンヘというのありますね、鎮海という、日本が作った（軍港）。

今西 植民地時代に日本が作った、海軍基地ですね。

安 そこを占領して、釜山に行くと、馬山では戦う必要ないと。そう思ったみたいなんですけど。鎮海には、アメリカ海軍がね、入っちゃつて、そこに、船がたくさん入つたみたいですね。そこで、艦砲射撃ですか、それでもう人民軍が、全滅しちゃつて、総崩れ。そうですね、うちの郷里がね、まったく戦場になつちゃつてしまつたんです。

今西 村は焼けたんですか。

安 おお、もう村はみんな、焼けてね。村が焼けたのは、人民軍が焼いたもんじゃなくて、アメリカ軍が焼いた。それが何かといいますと、（アメリカ軍は）人民軍が兵站を現地で確保するということに気付いたんですから、兵站が焼



けてしまったらもう、兵站がなくなるんですから。そうやったみたいだけだね。それは完全にアメリカ人がやった。

今西 その時は、だいぶ死者は出たんですか。安 いやいや、それがね、死者は出なかつた。どうしてかといいますが、晋州を閉めちやっ

てしまつてね、そこから韓国政府が、「人民はみんな、北朝鮮に取られちやう」と、「これじゃ国が滅びる」と。だからみんな、その晋州の南からは疎開したんです。私もね、今の金海というね、(そこにある)進永<sup>ジンヨン</sup>というところにね、あそこに疎開させられちやつて。人を居なくしている。みんな空白にしておいて、もう火をつけてね。

今西 燃やしたわけですね。

安 みんな燃やしてしまつたんです。

今西 じゃあ、北も攻めてる間に、どんどん兵站を燃やされて、兵站補給できなくなつてる面もあつたわけですね。

安 そこでね、戦線も、長くなつちやうんでしょ。それも完全に、空はアメリカ軍が制圧していますから。それと、昼は動くことできないんですよ。夜にしか動けない。空軍がありますから。そこで兵站が、どんどんどんどん苦しくなつちやつて。

今西 釜山に近づけば近づくほど兵站がもうダメになつていたわけですね。

安 そこはね、そこはもう一番最終の戦線として、馬山<sup>マダ</sup>と大邱<sup>テグ</sup>と、これを指定して、それを必死に守つたんです。それで、大邱あたりの戦争で人民軍は完全に、負けちやうんですね。

ね。やつぱり、政治家たちはね、そんな判断をしていたんじゃないんですかね。そこからもう、後退すると、国がなくなると。濟州島<sup>チエジュド</sup>に移るかという話もあつたんですけどね。これは絶対できないと。これはもう、そこまでいつたらね(笑)。

今西 濟州島に政権を移すという。

安 ええ。既に、蒋介石の支援もあつたんですよ。

今西 台湾ですね(笑)。

安 上陸の前にもう人民軍、負けちやうんです。馬山で負けちやつてね、そうやるんです。そうですから、東ですと、浦項<sup>ポフン</sup>だとかね。あそこからも、押す力がなくなつちやつてしまつた。そこでね、マッカーサーが、仁川<sup>インチオン</sup>と元山<sup>ウォンサン</sup>で、やつちやつてしまつたんですから。

安 戻ることできないと。だからここで、なんとか。

今西 だけど北へ攻め込んで行つたときに今

今西 釜山で防がないと。

度、中国の人民解放軍が出てくるわけですよ。

安 頑張るべきだという、それがね。大邱を守る時、既にそんな判断があつたんじゃないんですか。ここから後退したら、もうだめだと。

安 その時、北の平壤が占領されてね、その後

今西 大邱戦でね。

じゃありませんか。中国の人民軍が、密かに国境を越えてね。

安 そこでたくさんさんの犠牲者が、両方で、でちやつたんですから。

今西 来ますよね。

今西 やつぱりそうすると大邱の攻防は大きいわけですね。

安 ええ。大挙して来るんですね。

今西 あの時、もう、最初はやつぱりかなり恐怖が大きかつたわけですよ。先生も含めて、普通の人たちもです。普通の人たちが、このまま

三・二 五〇年代前期(朝鮮戦争期)  
② 避難生活時代と「文明」との接触

いつたら北が攻めてきて、南朝鮮を全部占領するんじゃないか、という危機感があつたんですかね。

今西 その時が、だいたい、中学生くらいですか。安 私その時ね、中学校に入ったんじゃないくて、避難民になつちやつて。

今西 いや、私は、その時ほとんどなかつたんです。そういう判断はできなかつたんです

今西 ああ、避難民ですか。安 その時はもう、中学校に入つてた人間はみ

んな避難民。私は当時は中学校入ることもできなかつたんです。その約一年間は避難民生活です。

今西 一年間ですか。

安 いやいや、一年じゃない、避難民生活はね、約二ヶ月くらい、だつたんですかね。二ヶ月くらい経つたらもう、人民軍が来て逃げちゃうんですよ。

今西 ええ、郷里に戻りますよね。

安 ええ。そこで陽曆の九月に、郷里に戻っちゃつたんです。みんな焼けちゃつてね。家、何もないね(笑)。食べ物もないね。

今西 それはなにか、避難民キャンプみたいものを作つたんですか、その時は。

安 もう避難民キャンプもないんです。

今西 キャンプもないんですか。

安 いやいや、非難した時はね、避難民キャンプというよりは、金海に進永というところあるんだけど、あそこに中学校がありましてね。だいたい避難民キャンプというのは学校だったんです。当時は学校で教えるとかそんなことではなかったんですから。教室に入っちゃつてね、もうたくさんの人間がひとつの教室でね、眠つたり、生活したり、そんなでした。

今西 当時は食べ物アメリカ兵が持つて来るんですか。韓国軍から来るんですか。

安 食べ物、どうだったかな。うちから持つ

つたものも少しあつたみたいでしてね、配給も少しあつたんじゃないんですか。

今西 それは、韓国軍が配給してくれたんですか。

安 韓国政府でしょうね。

今西 政府がね。

安 配給も少しあつて、アメリカ軍がね、何か、食べ物たくさん作つてね、配つたり、そうしました。もう完全に当時には、なんと云つてるんですかね、韓国語でコジ(物乞い、みじめな身の上の意)だと言つてるんですけど、もうコジだったんです。

今西 その時に初めてアメリカ兵をたくさん見たわけですね。

安 その時みんな、戦争の時からはもう、どこでもアメリカ人におつかるね。その時ね、韓国の戦争でね、アメリカ軍隊が韓国に入つて韓国人の考え方だとか生活の様式だとか、これが「だーん」と変わったと思います。

今西 そうでしょうね。アメリカ文化がすごく入つてくるでしょうね。

安 それは植民地期のそれとは全然違う。そこでね、アメリカ人の兵器がたくさん入つてくるんですよ。私はもう腹が減つて、郷里に帰つてもどうしようもないんだから、アメリカ軍隊のね、陣地に入らんです。陣地に入つたらね、アメリカ人は食べた後のね、残り物をみんな捨て

るでしょ。それを拾つてね、食べたんですね。もう食べるものがないんだから。

今西 米兵の残飯つてやつですね。

安 だいたいその人たちは缶詰とかね。包装も、水に濡れないような、いい包装するでしょ。今、もう世界中みんなそのような包装ありますけど。戦前は、ほとんどなかったね。日本はあつたかもしれないけども。

今西 いや、(日本も)プラスチックなんてほとんど使わないし、そんなにビニールとかなかったです(笑)。

安 いやあ、拾つてね。土が付いてるんだけど、洗つたり、【手を擦りつつ】こうやつたら済む。きれいなもの食べることできたんですから。それを捨てるためにね、アメリカ陣地にしょつちゅう通つたんですよ。私その時、小学校卒業してすぐだったんですよ。

今西 米軍キャンプですね。

安 そこでね、アメリカ人の兵器と接することになつた)。どうしてかといいますとね、アメリカ人陣地の周りは地雷が、いっぱい埋めてあるんですよ。それを突破して陣地に入らなければならぬんですよ。そうですから、「陣地に入つたら危ないよ」っていうのは、みんなよく知つてましたけど、そこに入らないともう食べ物がないんだから。私が代表として、入つたんです。

当時ね、うちでは私を使ってね、私は悪いこといっぱいやったんですから。チケツトもらうんだとかね。(どういうことかという) 当時は物資が足りないんですからみんな(配給の)列を作るんですよ。その時私を送ったらね、すぐ「ばっ」と盗ってくるんですから。横取りですか(笑)。(人の頼みを素直に聞く) よくできただ人間だったんですけど、悪いことばかりやってました。今はね、恥ずかしいんですけど。

今西 まあ生きるためですからね。  
安 当時はね、そんなことすると、本当に褒められたり、そうしましたけど。だからそんな人間だったんですから「陣地にも君は入れるんじゃないか」と。その次ね。恐る恐るね、地雷のね、線が「スーッ」と引いてますから。それを越えて、入っちゃって、たくさんそれを取ってね、拾って、出て来て、みんな一緒に食べたりもしたんですから。そうしますとね、たまにはね、それ爆発してね。注意が足りない人がいるでしょ。負傷したり、そうしますね。

今西 そりや事故は起こりますよ。  
安 だからもう、うちの面だとか郡ではそんな人(死傷者)がたくさん出ましてね。そこで私は考え出したんですよ。「お、地雷を無くしたらいいんじゃないか」と。それでね、地雷をよく勉強しますとね、色んな種類の地雷があるってことを知ったんです。照明弾だとかね。

照明弾というのは、地雷を爆発させて人を殺すもんじゃないくてね。落下傘が「ばあーっ」と上がつて行くんです。そこで落下傘の下に火薬がついてまして空中で「ばあーっ」と光を照らしたりね、侵略してくる人を見れるでしょ。そんなのだから、対人地雷だとかね。人を殺すためにある。対戦車地雷だとか、そんなものあるんだけど。うちの村の後ろが陣地だったんですけど、あそこは、照明弾についてる地雷だとか、対人地雷だとか、そんなのしかなかったんです。照明弾というのはこれはもう、すぐ無くすことできるんですね。私はみんな無くしたんです。

今西 すごいですね(笑)。  
安 対人地雷、人間に対する地雷なんですけど、これはちよつと恐ろしいんですよ。それで、照明弾地雷を私、分解したんです。分解してみますとね。みんなネジによつてね、組み立てられているということを知ったんです。「お、これでしたら、私、みんな無くすことできるでしょ」と思ってたね。(そこで今度は)対人地雷に挑戦したんです。これを見てみますとね、それはね、ネジ式でできてますね。そこで、それをひとつずつ拾ってね。

今西 よくそんな危ないことしましたね(笑)。  
安 戦争の道具で、戦うために、これを作るでしょ。そこに手を入れてね。そこに「ばーっ!」と力を入れて、これを分解してみた。

今西 すごい、下手したら爆発する(笑)。危ないですよ。

安 それ分解してね、構造を知ったんです。そこでようやく分かったんです。あ、これはね、釘があつて、バネがこうなつててね、バネを引いたら、「バン!」と。芯に当たつたら、爆発すると。原理が分かっちゃったんです。それでバネにね、穴があるんです。穴にね、何か、細いね、これを鉄にやつて、これを入れたらね、バネがもう、「ばっ!」と。バネが「ばっ!」という時ね、一番下までいかなくて、「ばっ」と止まるんです。安全装置です。それ知った。それを、「ばっ」とこう、入れてね。

今西 いや、それはすごく危険なことですよ(笑)。  
安 それで私がね、咸安郡でね、「地雷でしたら安を呼んだら、解決できる」と。そのくらい有名になつちやつて。

今西 今でも爆弾処理するのは大変な仕事ですからね、危ないです。  
安 そんなこと自慢するためにね、私そんなこと言つたんじゃないくて、そこでね、私が文化的に非常に衝撃を「ばーっ!」と(受けた)。アメリカ文化に。食べ物拾って、食つてもいいね、そうだし。それに銃なんか、分解もできるしね。手榴弾もね、持つても遊ぶことができる。そこでね、私は、完全にもう、「近代的

な少年」になってしまった。私その影響が大き  
いと思います。

今西 アメリカ文化への接点が、そういう接し  
方だったんですね。戦争を通してアメリカ文化  
に接するという。

安 機械文明が何かということ、そこで覚え  
ちゃった。

今西 体で覚えてしまった。

安 そうそうそう。

今西 そこで、機械文明というものを体験した  
んですね。

### 三・三 五〇年代前期（朝鮮戦争期）

#### ③ 中学校時代

安 そこで一年後ね、中学校二年生として入学  
したんですね。

今西 どの中学に行かれたんですね。

安 郷里の、咸安中学校。

今西 咸安中学ですか。

安 二年生として入っちゃったんですけども  
ね。それ偽の証明書、どこからか取ってきてね。

そうでなければ、二年生ということできないで  
しょ、みんな。もう当時にも、嘘のそれはたく  
さん作ることできたんですね。

今西 そうですか（笑）。

安 どうしてね、一年生をとばして、二年生に  
入学できたかといいますとね。

今西 二年生に入ったのはまだ戦争中なんです  
か。もう戦争終わってるんですね。

安 戦争中でしょうか。

今西 戦争中ですか。

安 朝鮮戦争が勃発して。

今西 五三年に終わる。

安 一年生にまだなっていないところで、中学  
校入ったんですね。一年できたかな。一年で  
きなかったかな。もうそのくらいだった。どう  
してそこに入るくらいの実力があつたかとい  
ますと実はね、実力はあつたんですね。どうし  
てかといいますとね、その地雷整理のためにね、  
働いたんですね。一緒に行った人がね、そこで  
失敗してね、亡くなってしまった。私一緒に行っ  
たんですね。私の責任だと。「安の責任だ」と。  
そのように非難されるんですね。それも当然だ  
と思うんだけど。そこで落ちこんでね。「この  
人、戦地においておけばね、この人もう、きつ  
と亡くなる」と。いつも兵器と一緒に遊んでま  
すから。そこでね、釜山に、送られてしまっ  
たんですね。うちの保護者たちがね、釜山の兄貴に  
言つてね、「そこで生活してください」と。「そ  
うでもないよと君きつと、死にますよ」と。それ  
で釜山に行ったら兄貴がね、兄貴と一緒に私、  
炊事をやりましたから。ご飯を作ったり、そ  
んな。時間が余るんですね。それで、もともと  
（放っておくと）危ない人間だったんですね。

兄貴がね、いつも難しい課題を設定するん  
です。いや、「今日ね、この書物ね。この何頁、何頁、  
数学のテスト、みんな受けて。置いとく。」と。  
そうでなければね、英語ですと、「みんな覚え  
ておくん」とかね。そこでもう、一年の間に  
兄貴から教育を受けて（笑）。

今西 兄さんからね。

安 兄さんからね。中学校二年に入ったと思  
うんだけどね。入つてみても、もうついていく  
らしいの実力があつたんですね。

今西 ええ、そうでしょうね。

### 三・四 五〇年代中期（朝鮮戦争後）

#### ④ 高校時代

今西 じゃあ、朝鮮戦争が終わるのが、中学卒  
業するくらいですか。ちょうど五三年ですが、  
その後、中学を卒業してまた高校に行かれるわ  
けですね。

安 そうですね。高校に上がつていつてね、朝  
鮮戦争が終わつたと思うんですね。

今西 ああ、五三年ですね。

安 私が釜山工業高校に、上がっちゃったん  
ですね。

今西 そうですか。

安 ええ、咸安中学校から卒業して。そのとき  
に釜山でね、スターリンが亡くなったというね、  
チラシが配られて。

今西 そうすると五四年ですか。

安 見たことありますか。それね、釜山に行つてそのチラシを見たという感じですね。スターリンが亡くなつて。その頃休戦だったんでしょ。

今西 そうですね。

安 そうですから釜山で、休戦を迎えたと思ひますね。私かね、五六年に、高校を卒業したんです。高校卒業して、ソウル大学に挑戦して、一回失敗したんです。

今西 工業高校に行かれたつていうのは、その頃はエンジニアになるつもりでいたんですか。

安 いや、その計画ではなかったんですね。当時、中学校通つてね、咸安でも咸安高等学校がありましたけどね。「そこに進学するか釜山に行くか」と思つてね。(結局)「釜山に行かないとダメだ」ということになつて、もう郷里にいてもお金がないんだから、お兄さんのところに行く方がいいんじゃないか、と思つて釜山に挑戦した。その時、ふたつの理由があつて、釜山工業高校に挑戦したんですけどね。ひとつは何かというと、当時の釜山高校というのは、慶南高校と並ぶ、釜山で、レベルが高い高校だったんですけど、そこに挑戦したら失敗する可能性があるくらいの成績しかなかったんです。

それがひとつでしてね。もうひとつは、ちょうどその時ね、入学するためには、入学志願様式がないとダメでしょ。それが残っていたのが、

釜山工業高校だったんでして。ちょうどね。だから「これが残つてるんですから、ここ行きましょう」つて。そこで偶然にね、釜山工業高等学校機械学科に入っちゃつたんです。それね、何か、エンジニアになるために入っちゃつたものじゃなくて、偶然だったんです。

今西 そうですか。でも理数系は好きだったわけでしょ。地雷を解体するくらいの能力があつたわけだから(笑)。

安 私は実はね、工業学だとかね、数学だとか嫌いだったんでしてね。

今西 嫌いだったんですか。

安 けどね、成績を見ますとね、いつも数学はいいんです。

今西 それはいいですね(笑)。嫌いでも成績がいいのは。

安 機械関係ね、それが好きな人間だけど、でも、いつも歴史だとか文学だとかね、そんな思考だったんでしてね、うん。

今西 その頃は、歴史とか文学とかどんなものを讀まれました。高校生の時代の本とかは。

安 あんまり讀んだことはないんです。

今西 文学とかはいかがですか。

安 文学はね、やつぱり朝鮮人文学者として韓龍雲ユンウン(一八七九〜一九四四年。僧侶、詩人、独立運動家)だとか色んな人がいるんですけど、それは小学校の高学年からね、しよつちゅう讀

んでましてね。元々私は、国語国文学科に進学しようと思つ(てい)たんです。だけどもちが貧しいんですから、「君ね、うちはお金もないし、大学に通うことも難しいんだ。だから大学を卒業してね、うちを経済的に支えるべきじゃないか」と。「だから商業学校に進学しなさい。」と。いつて、ソウル大学商学大学〔編注：商科大学〕に挑戦して、受かつたんです。

今西 一回は落ちたんですね。最初はダメだった。あそこ、最初は失敗して、二回目に受かつたんです。

今西 それで、ソウルへ行かれるわけですね。

安 当時のソウルはね、前申上げた通り、兄貴がね、お兄さんが二人、高麗大学に進学して、一人が三星の社員に既に入っていましたから。お兄さんについてソウルに進学したんです。

今西 けどまだ、朝鮮戦争の焼け跡とかあつて、ソウルといつても当時はまだ貧しい時代だったでしょ。市庁舎も燃えて。

安 どうだったんですかね。釜山の高校通う時は戦争中だったんですから。

### 三・五 朝鮮戦争による社会の変化について①

韓国の歴史学界に対する批判

安 それと、何かね、朝鮮はね、ずいぶん変わったのは、植民地にもずいぶん変わったんですけ

どね、朝鮮戦争中に、韓国は非常に変わったんですね。これはもう、文化的に完全にアメリカ式に変わっちゃったと。これ非常に大きいと思います。植民地期(前)にはね、やっぱり一九〇五年の乙巳条約(第二次日韓協約)が大きかったんですね。その後は、実質的に政権は日本人がとってしまっただけです。そこで制度改革をやるんですね。財政改革だとか貨幣改革だとかね。土地調査事業だとか、度量衡の改革だとか。それがね、朝鮮社会の変化の非常に大きなね、改革だったと思います。今ね、(日本人が)

韓国人の植民地侵略のためにやったのね、どうしてそれが改革だと言えるのかと言う人がいるんだけど、それはね、今韓国近代史をやっている人たち、特に国史学をやっている人たちは、社会科学が何かっていうのが全く何も分かってないんだから。

今西 確かに、国史の人間は頭堅いですよね(笑)。

安 私いつでも指摘するのはね、君たちがいつも歴史科学だと言ってるんだけど、全く嘘じゃないかと。あそこ何が科学があるのかと。

今西 まあ、そう言うから国史の人たちから嫌われる(笑)。

安 (彼らは)みんな「そうじゃないか?」という、価値判断でしょうと。それは前近代的なね(考え方)。歴史というのはみんな価値判断

ですけれどね。勸善懲悪でしょ。

今西 はい、勸善懲悪が強いですね。

安 勸善懲悪は道徳学なんです。君たちが今言ってるのはね、反民族だとか、親民族だとかいうのはみんなね、こんな道徳と何が違うのかと。このような科学はないんですよ。こんなね、(科学的)理論があるということを知りたいことない。だから、人文学だとか社会学だとか、社会科学ですけれどね。こういう科学がないとダメじゃないかと。君たちは社会科学的ではないと。

### 三・六 市場経済の話

安 そうですから実はね、植民地権力が財政改革をやって、貨幣改革をやって、近代的な度量衡制度を取り入れて、土地調査事業、私的所有制度ですね、それを取り入れて。もしくは、鉄道だとか道路だとか港湾だとか、インフラストラクチャーを作るんですよ。そこから、日本人が、日本の銀行も入ってくるし、会社も入って、日本資本が「ばーつ」と入ってくるんですよ。そこから一応の「市場経済システム」というのが作られるんですね。いつもね「市場経済」(「マーケット経済」といつたらね、一般の人たちは「マーケット」と「市場経済」をね、区別できななんですよ。「マーケット」があつたらそれは「市場経済」だと。これ全然!とんでもない。

い。経済学を知らないんだから、そんなことを言うんです。「マーケット」というのはね、古代からずっとあるんですよ。だからそれを「マーケット経済」だとは言わない。「マーケット」というのは自然経済の中でね、その一環として、みんなありますよ。

今北朝鮮はね、「市場経済」に変わるんだとかなんとか、変なことしゃべってるんだけど、あそこ、「マーケット」はあるんだけど、「市場経済」とはそんなもんじゃないんですよ。「市場経済」というのは「市場経済」ができるね、システム、インフラストラクチャーがないと全然建設されない。インフラストラクチャーというのは近代的な財政制度なんです。つまり近代的な貨幣制度と銀行制度、それときちんとした度量衡制度ね。私有財産制度だとかね、そこに道路だとかね、鉄道だとか、電話だとか、電信だとかね。こんなことが入らないと「マーケット経済」はできない。この人たちはそれを分らない。だから「マーケット経済」ができたから、一九一六年から朝鮮人の方でもね、近代的な工場経営ができるわけ。これできるのは、「マーケット経済」ができる。この条件がないとダメなんです。

これはね、台湾を見てもそうなんです。台湾もね、日本の植民地になる前はね、台湾にも色んな中小企業だとか、あつたんですけど、そ

んなに活発じゃないんだけど、日本人が入ってね、みんな近代的な制度を作っちゃうんですよ。台湾にね、中小企業が「ぼーっ！」と盛り上がるんですよ。台湾ではね、日本人の中小企業は約五パーセントしかない。朝鮮はね、一九一六年にちょうど第一次戦争で好況だったんですよ、景気がよかったですよ。

今西 ええ、ものすごいインフレです。

安 そこから朝鮮も工場が「ぼーっ」と増えるんだけど、その時、初めは九九パーセントみんな日本人の工場だった。朝鮮人の工場じゃない。まあ、五パーセントあったかな。それ以後ね、朝鮮人工場がどんどんどんどん増えちゃって、一九四四年ぐらいになりますと、日本人の工場が約四〇パーセント、朝鮮人五〇パーセント、もちろん充実した工場は日本人（の経営する）工場ですよ。

そこでやつぱり私はね、植民地期に「市場経済システム」ができる、ということとね、もうひとつは、小学校が「ぼーっ」と普及されるでしょ。近代教育ができたということ。これが韓国社会の変化に非常に大きな影響（を与えた）。だから一九一〇年の段階ではね、中国と韓国を比較してみますと中国ははるかに韓国、朝鮮より発展していた国だったのに、一九四五年の段階で比較してみますとね、社会構造が朝鮮がうんと発展した段階に入ってしまったということ。

いつも私、そのようにしゃべってるんだけどね、韓国人はね、そこに目をつむるんですよ。「見たくない」って。いや、見たいか見たくないかっていう、そんなことはね…。

今西 「植民地近代化論者」と悪口を言われるわけですね（笑）。

安 人間がこれが好きだとか悪いんだとかは、状況によるんですよ。もともとこれが好きでこれは嫌いだとか、そんなことはね、決まったことではないんです。その人たちは社会科学をやらないんだから、そんなこと分からない。いつでも何か「価値」というのが前提にあつて。

今西 それは強いですね。

安 そこから人間が考えていくんじゃないかと、そのように思うんだけど。全く嘘でして、そんなことない。人間っていうのは、物質によってみんな支配されてしまったっていう。もちろん人間というのは倫理というのがありますよ。それは否定できないんだけど、主には人間の考え方っていうのは周りの状況によって「わーっ」と変わっちゃう。

### 三・七 朝鮮戦争による社会の変化について②

今西 朝鮮戦争で一番大きな変化っていうのは何を感じたんですか。

安 やつぱりね、一番大きいのは、李承晩の時、自由民主主義制度が導入されましたね。そこか

ら人間が守ることを考えるようになったんですよ。

それが非常に大きいと思いますけど。朝鮮戦争をきっかけとして、朝鮮とアメリカの関係が非常に密着になっちゃってしまふと。アメリカの影響が非常に強くなってしまう。その中でもね、アメリカへの留学生がたくさんできたということ。これが大きかった。一九五〇年代にね、韓国人のアメリカ留学生を見ますとだいたい八千人くらいだと言われているんだけどね、そのうち五千人が軍人です。純粋な留学生は三千人くらいだと言われているんだけど、その数字が正しいかどうかは分からないけど。そうです。からこれがね、七〇万に上る軍隊が来た（編成された）ということ。これが一番大きい問題ですね。

今西 ソウルのと真ん中にも基地があつたわけですからね。

安 基地だけじゃなくてね、米軍だけじゃなくて、朝鮮人、韓国人の軍隊がね、七〇万、最高の時。だからね、近代国家ができる条件があるんですよ。ひとつは、「財政の独立」ですね。もうひとつは何かといいますと、「国民軍を作る」という、このふたつなんです。だから朝鮮戦争によつて国民軍ができましたと。北もそうだし、南もそうだし。これがね、韓国で近代国家が作られるひとつの契機だった。これが朝鮮戦争だと思います。私はね、それまで財政独立はできなかったけど、朴大統領になつ

て公共化によつて財政独立を確保した。そのふたつの条件で韓国は近代国家になったと。私はそのように思つております。そうですね、朝鮮戦争によつて七〇万の軍隊が、国民軍がでるんですけど、これはね、アメリカの援助でできたのですよ。韓国の財政ではとてもこんなことできるもんじゃないんです。

今西 無理ですよ。

安 そうでしょ。

今西 戦後五〇年代の韓国経済なんてものすごく低いじゃないですか。

安 そうですよ。

今西 アフリカのガーナ並みだったわけでしょう。

安 所得水準はそうだったんですけど、社会構造は違うんですけどね。所得水準からいきますと、ガーナだとか、そのくらいだったんですけど。だけどね、李朝時代の文化もあるんだから。

今西 文化はもちろん違いますよ。

安 日帝時代の社会構造だとか、そんなことはガーナとは全然違うんだから。国民所得、一人当たりの所得は、そういうえるんですけど。

今西 貧しさという点ではすごく貧しい。

安 そんな国にね、七〇万の軍隊ができる。七〇万の軍隊ですとね、世界でね、二番目か三番目か四番目か、そのくらいの軍隊がでちゃった。その軍隊がアメリカによつて近代的に訓練

されちゃつてね。一番韓国では先進的な社会勢力になつちやつた。その人たちがクーデターによつて政権を握つちやつた。それが林政権なんですね。だからその人たちはね、近代化は何かということ(を分かちつて)、近代(的)組織をね、経営する能力があつたわけ。

今西 当時の軍隊は、そうですね。

安 だからこの人たちが六一年にクーデター(五・一六クーデター)を起こして、六四年まではね、組織はあるんだけど、国をどのように経営したらいいかということからなかつた。ちよつと混乱もあつたんだけど。六四年後半期に入りますと、韓国自体が自立経済を求めたら、これは絶対成功できない。どうするか。

自立経済を求めてね、輸入代替工業化(従来外国から輸入していた製品を、国内生産によつて部分的もしくは全面的に自給化すること)をやるでしょ。そうしますともう、外貨が不足するでしょ。それで市場が狭くて、これだけでは工業国にならないでしょ。そして資本もないし、技術もないし。こうしてようやくその人たちは分かつた。貿易を分析してみますとね、何が輸出されるかと。最初は農産物だとか鉱産物を中心として輸出して、輸入したいと思つたんですけど、三年くらい経験してみますとね、工業加工、工業製品がね、活発に輸出されると。そこで、分かつたわけ。輸出志向、工業化を求めた

ら、外貨も得られるし。そうですね、輸出するんだから。資本もそれを基盤として、資本もできるでしょ、技術も入るでしょ。そこから、輸出志向工業国に、「ぼーつ」と変わつちやう。それが変わる能力があつたのは、既にアメリカ軍隊組織があつて、組織をどのように動かしたらいいかというノウハウを蓄積されてあつたらじゃないかなと私は推測しますけど。そこがね、朝鮮戦争で一番大きく変わったところだと、私は思うんです。

### 三・八 五〇年代後期(李承晩政権期)

大学時代と原書講読

今西 先生のソウル大生時代のことをききたいんですけど、ソウル大学へ五〇年代後半に入られるわけですよ。

安 私はね、ソウル大学に入るのは、五七年ですよ。五六年に高校卒業してその前に一度失敗したんですけど。

今西 一回浪人して、それから一浪して五七年に入られたわけですね。

安 入りますとね、もう教科書がないんですよ。だから、アメリカの教科書を使つたんですよ。そうですから、ポール・サミュエルソン(一九一五〜二〇〇九年)のね。

今西 サミュエルソンの『経済学』(原題: *Economics: An Industry Analysis*、一九四八年。



邦訳としては、都留重人訳『経済学』上・下（第一三版）岩波書店、一九九二年ほか）ですか。

安 『経済学』入門というのがありまして、それをもつてね、勉強したんですけれど。実はね、私の英語の実力はね、それを読んでね、消化できるレベルじゃないんです。英語の勉強としてやっただけですね。だからね、「教科書というのはそんなものだ」と。もちろん韓国語でね、書かれた教科書もあったんですよ。けども、何かね、論理もないし、統計学の教科書もあったんですけどね。数学というのは、非常に論理的ですね。数学公式というのあるんじゃないですか。そこでは未知数とかね、色んな変数だとかなんとか色々あるんですよ。それ一文字でもね、誤植があったらもう、解けないんですよ。数学というのは。

今西 数学の教科書に誤植があったら解けない（笑）。

安 誤植がいつぱい（笑）。

今西 それは無理ですよ（笑）。

安 そんな教科書もつて我らね、勉強したんですから。我らの同級生の中では冗談でこう言ってるんですけど、「我らは天才ですよ。こんなね、みじめな教科書で勉強して分かっちゃったんですから」と（笑）。

今西 誤植だらけの（笑）。

安 なんとかもうそれを読んだんですけど、

やっぱアメリカの教科書が影響力あったんですね。英語よく分からないんだけど何年か読んでみますとね、少しは分かるんですよ。それと前に私申し上げた通り、（元々は）国語国文学科志望だったんですから。学部の時、経済学の勉強したんですけど、実はね、それよりはね、小説とか英語の小説とか、そんなものを読んだんです。

今西 どんなものを読まれたんですか。

安 （アーネスト・M）ヘミングウェイ（一九一九〜一九六一年）の小説とかね。そんなものも読むんだとか。そうじゃなく経済学ですとアダム・スミス（一七二三〜九〇年。イギリスの経済学者、哲学者）の『国富論』（原題：An Inquiry into the Nature and Cause of the Wealth of Nations、一七七六年。邦訳としては、玉野

井芳郎、田添京二、大河内暁男訳『国富論』一〜四、中央公論新社、二〇一〇年ほか）を直接読んでみるんだとかね。（ジョン・メイナード・ケインズ（一八八三〜一九四六年。イギリスの経済学者）の『一般理論』（『雇用・利子および貨幣の一般理論』。原題：The General Theory of Employment Interest and Money、一九三六年。邦訳としては、間宮陽介訳『雇用、利子および貨幣の一般理論』（上・下）岩波書店、二〇一二年ほか）も直接読んでみるんだとかね。だけど分かるはずがないんですよ。なんとか目

を通してるんだけど。朝から午後までずっと図書館にいたということは間違いないんだけど、何を覚えているかというのは分からない。そんなものだったんです。

今西 マルクス主義のものも読まれたんですよ。

安 いやいや。

今西 その頃は読んでないですか。もつと後ですか。

安 学部の時は何も、読まなかったんですけども。学部の時、私、病気だったんですから、一年留年したんです。脊椎結核（＝脊椎カリエス。結核性脊椎炎とも呼ばれる。脊椎に結核菌が感染することによっておこる脊椎炎）だったんです。脊椎に、骨にね、病原菌が入りました。

今西 割と昔は多かったですよね、結核とか脊椎カリエスとか。

安 それで大学二年の時ね、手術を受けたんです。

今西 ああ、そうですか。

安 うん。病気だったんですからね。そこで、そんな関係もあって、病院に入っても、誰だっただけ、「ロイド・アンド・ベジティス」（ママ）という、そんな小説もあります。有名な英国人の小説家、誰ですか。名著なんです。それが何かといいますと、クラシックイングリッシュから現代イングリッシュに変わるね、そんな時期の。だから文章が非常に難しいんですよ。だけ

ど分からなくても読むんです(笑)。それでね、何も分からないのに、(ウイリアム・)シェークスピア(一五六四〜一六一六年)にも挑戦してみらんだとかね。あとからね。だけど、シェークスピアはもう参っちゃった。何度読んでも分からない(笑)。だから失敗しちゃった。

今西 シェークスピアの英語は難しいですよ。

安(当時)韓国(で)の勉強というのは何も実証はなかったんです。『体当たり』。日本人の表現でね、特攻隊の『体当たり』。そんな意味での『体当たり』なんです。もう『体当たり』で勉強するんです。これがあればこれで勉強するんだとかね。体系的な勉強だとかそんなの、ほとんどなかった。

今西 本があったら読む、そっちの方が先なんです。

#### 四、六〇年代以降の話

##### 四・一 六〇年代学生運動と

##### 社会主義理論について

安 それとね、マルクス主義の勉強はどうやってやったかといいますと、四年生の時、一年留年したんですから、四年生の時、「四・一九」、その学生運動(「四月革命」/「四・一九革命」：一九六〇年不正選挙に反発した学生らによる抗

議デモ。これにより李承晩を下野させた)があつて。

今西 李承晩打倒という。

安 私はあそこ参加したんです。そうですから、光化門(一三九四年に景福宮(王宮)の正門として建設。ソウル市鍾路区に位置)からね、出てきて。前ね、今のソウル市庁の議事堂とかあるんですよ。その前でデモしたんです。私もね、そこでデモしていますとね、今の青瓦台(韓国の大統領官邸)から銃の音が「ババババツ！」と聞こえてくるんです。警察官が学生に向かつて発砲したんです。我らも、青瓦台に向かつて進行したらどうかという話もあつただけどみんな臆病だったんですから、「いや、危ないですよ」と言つてそこに行かないで、法院(裁判所)がありますからね。貞洞(チンドン)という法院の前に行つてね、抗議したり。そうやつたんですとね。

今西 そうですから、四・一九運動がね、私に非常に強い影響を及ぼしてしまつた。その前まで私は、高等試験受けて、官吏になるかと思つたんですけど、そこで、取りやめたんです。そこで、「国というのが何か」と。「政治というのは何か」と。そんなことを考えるようになりました、そこからね。

今西 具体的な学生組織とか、共産党とか政治組織とかそういうものはあつたんですか。

安 いや、その時そういうことについて、政治

意識ができたんです。その前までは政治意識はあんまりなかつたんです。

今西 ノンポリ学生つていうやつですね。

安 ええ。政治意識がきちやつて、そこで、「国が今抱えている問題が何か」と。「韓国近代社会が志向する道はどんなもんか」と。もうそんなところはずつと関心があつて。大学院に進学して、もうちょっとゆつくり勉強すべきだと。そのように思つて、大学院に進学したんです。

今西 マルクス主義つていうのは、どういうマルクス主義が強かつたんですか。

安 大学院に進学して何を専門にしようかと思つた時、それが分かるためには、歴史をやらなくちゃならない、と思つて韓国近代史をやるうと。そこでね、近代史をやるんでしたら、日本人が残した書物を読まないとダメ。そこで私(前に)申し上げた通り、約十日ぐらい日本語勉強したらもう、スラスラ、と出てきて。

今西 すごいです(笑)。それはすごいですよ。安 図書館に入つてみますとね、書物がもう、半分以上も日本語書物だったんでしてね。その前はそんなことできなかった。それ以降は図書館に入つてみますとね、三分の二くらいはね、みんな日本語であると。それと日帝時代を勉強するために日本語分からなくちゃダメだと。それで日本語覚えたんです。日本語覚えて学生運動と同時にね、四・一九以降、学生運動活発

だったんですから。いつもね、「学生運動の課題が何か」と。もう大学院生だったんですから、それに気がつくんですね。そうですから、

社会運動についても目がさめてしまつて。社会運動を、やつぱり、その運動をどのようにやるべきかというところをマルクス主義でいつたんです、そんなこと。運動理論ですから。そこからマルクス理論を、勉強するようになりました。

それで私の先輩の中で一人がね、組織運動をやつてる人（がいます）。その人は朝鮮戦争以後から、「南民戦」（「南朝鮮民族解放戦線準備委員会」の略称。朴正熙の維新体制を批判しつ一九七六年二月に地下組織として結成）運動をした人で、マルクス主義者だったんです。そこでマルクス主義の書物が図書館にあるかどうかを調べてみますと、いっぱいですね。

今西 京城帝大時代からのものがたくさんあるわけですからね。

安 その時までではね、反共主義は強かったんですけどね、図書館にそんな書物がたくさんあるということ、誰も分からなかつたわけね。私が入った図書館に入って調べてみますといっぱいある。今西 戦前のマルクス主義の本、日本からいっぱい買つてるわけですから。京城帝大の時代からね。

安 それね、英語もあるし、『マルクス・エンゲルス全集』つてのもたくさんありますね。

全集だけじゃなくて、色んなものがありました。

今西 マルクスの現物を読むことから始まつたんですか。マルクス（およびエンゲルス）の『共産党宣言』（邦訳版：村田陽一訳、大月書店、二〇〇九年ほか。原題：The Communist Manifesto、一八四八年）とか、最初はそういうのから読まれたんですか。

安 日本語に翻訳されているものだったらね。（それと）英語で翻訳されているものだったら読んだんです。主に日本語だったんですけど。

今西 経済史は戦前の、例えば京城帝大（京城帝国大学）の鈴木武雄（一九〇一〜七五年。在勤：一九二八〜四五年）とか四方博（一九〇〇〜七三年。在勤：一九二六〜四五年）とか、そういう人たちのものも読んでおられたんですか、その頃は。

安 それはね。

今西 もっと後ですか。

安 韓国経済史をやるために、それを読んでみたんでしてね、経済学は。

今西 マルクス経済学、河上肇（一八七九〜一九四六年）とかは。

安 学部（時代）は近代経済学ですね。サミュエルソンとかね。

今西 サミュエルソンはだけでも割とマルクス主義の影響強いですけどね。

安 そうですか。

今西 ええ。

安 サミュエルソンは、そうですね。

今西 近経の中では一番マルクス主義の影響強い人なんですけどね、あの人は（笑）。

安 ええ。ミクロでは全然違いますけどね。マクロになりますと、ずいぶん、そうですね。

今西 マクロ経済学の理論はそうですね。明らかにね。いや、マルクスの影響が強すぎてノーベル賞取れなかつたんですけどね（笑）。

安 やつぱり、マルクスが直接書いた、『資本論』（原題：Capital: Critique of Political Economy、一八六七、八五、九四年。邦訳としては今村仁司、三島憲一、鈴木直／訳『資本論』（上・下）筑摩書房、二〇〇五年ほか）とか直接読んだんです。どれくらい、読んで分かつたかとか、全然私も分からないんですけど、なんとか読んだんです。

今西 読書会なんかはあつたんですか。社会科学研究会とか何かそういうクラブとかあつたんですか。

安 いえ、なかつたんですね。

今西 独学で。

安 私の弟子たちを教えるために、そんな書物をもつて読書会をやるとか、そんなことはありましたが、同期たちと一緒に読んだことはないんです。

今西 じゃあ独学なんですね。

今西 じゃあ独学なんですね。

安 完全に独学なんですね。そこで運動をやっているんですから、経済学だけじゃダメなんですよ。歴史だとか哲学だとかね。レーニン（一九〇〇〜一九二四年）の書物だとかね、分からないうちに、みんな読んで。

今西 毛沢東はどうだったんですか。影響されたことはあるんですか。

安 それはずいぶん後でしたね。そこで「韓国近代史の課題が何か」、ということを確認するためにね、ずっと悩んだんですね。マルクス主義の理論だとか、資本主義理論を読んでみても、これはもう資本主義一般の課題でしてね。「植民地が抱えている課題が何か」ということ。

今西 そうですね。

安 「低開発国が抱えている課題が何か」ということ。それを教えてくれなかったんですからね。それを、勉強するために、韓国近代の有名な人たちが、自分の歴史的課題をどのように認識しているかということをも勉強するために、韓龍雲とかね。韓龍雲という人お分かりですかね。有名な詩人なんですけどね。申采浩（シニェホ、一九三六年。独立運動家、思想家、歴史家）という人もいますでしょ。その人たちの全集を、読んだんです。それ読んでみますとね、韓国近代史の課題が何かということをよくしゃべっているんだけど、理論的にはほとんど整理されていない。私マルクス主義理論、ちゃんと読んで

ていましたから。比較してみますと、これではダメだと。これはまだ近代的な理論に入っていないということ、分かっちゃったんですから。

今西 でね、日本で五二年に翻訳された『毛沢東選集』（毛沢東、毛沢東選集刊行会著、三一書房）というのありましてね。五巻だったんですかね。それが偶然にね、手に入っちゃったんです。それがね、七〇年代だったか、いつの頃か分からないんだけど。それも読んでみますとね、私が求めているもの、みんな説明されてた。

今西 民族主義、民族解放理論ですね。安 そう。ですからこれが階級理論と民族理論を統合して、ひとつの理論を作っていましたから。そこでね、私がそれを読んでね、それよりはちよつと時期が早かったかもしれませんけど、六〇年代後半期か知りませんが、私はね、韓国民族学生運動の理論家になっちゃったんです。

今西 先生は『三・一運動』（韓国日報社、一九七五年）という本も書いておられますよね。安 ええ、それを書く時はね、それを出した時はまさしく、私はそんなものみんな読んでました。それ七五年に出したもんですから。実際その中では理論は一切ないんですけど、どうしてかといえますと理論を入れると。

今西 警察に捕まりますね（笑）。安 そうされますから。民族主義者みたいになつてね。

なつてね。

今西 反共法（共産主義団体への加入および勧誘、共産主義賛美、便宜提供などを行った者を罰する治安立法として一九六一年制定。八〇年廃止）にひっかかりますね。

安 階級理論もたくさん取り入れて説明したんですけれど、毛沢東理論は熱心に読みましたね。読んで、私、日帝時代は植民地半封建社会だ、というでたらめな理論を打ち出したり。

今西 当時はそうですね。安 ええ、そうですね。それはもう北朝鮮の影響もあります。そこには。

今西 金日成の。安 北朝鮮もそういうの持っていました。

今西 もちろん、北の歴史はそうですね。その頃は北朝鮮の本もこつそり読めたんですか。

安 それね、実はもう韓国でそんなことはみんな禁止だったんですけど（入手したんです）。「君どこからそんなもの手に入れたか」と。それは私の性格ですかね。色んな人と交渉してね、なんとか日本からね、それをね。

今西 日本経由でね。

安 プリントしてね。学者ですと、いくつかの書物をね、持って来てもいいでしょ。そんなもの持ってきた人たちがみんな私にね、「や、君、読んでください」と。北朝鮮の歴史科学だとか。なんとか、それも当時みんな読んでたんですから。

今西 当時はソ連の本も読まれたんですか。  
安 ソ連のね。

今西 科学アカデミー（ソ連における最高学術機関。西欧の科学技術や芸術の分野に追いつくために構想されたのが起源。一九二五年にソ連科学アカデミーに改称）とか。

安 哲学研究所だとかね、経済学研究所とか。

今西 『経済学教科書』（第一〜四分冊。ソ連邦科学アカデミー経済学研究所著、経済学教科書刊行委員会訳、新日本出版社、一九六三〜六四年）とかね。

安 その頃あるでしょ。それがみんな私の手に入っちゃったんですから、みんな読んじゃって。

今西 欧米の理論の影響は受けなかったんですか。例えば「ドップ・スウィージー論争」（ドップの『資本主義発展の研究』（一九四六年）にスウィージーが批判を加え、一九五〇年以降アメリカの Science and Society 誌上で展開された論争。封建制から資本主義への移行に関するいくつかの基本的な論点、主に封建制を解体させる起動力が外来的なものか、内部的なものかを巡って展開された。「移行論争」とかいう形で。安 それ読みました。経済学の中でも経済史ですから、そうですからモーリス・ドップ（一九〇〇〜七六年）だとか、ポール・スウィージー（一九一〇〜二〇〇四年）だとかね。大塚久雄（一九〇七〜九六年。経済史、歴史学者）だとか、

高橋幸八郎（一九一二〜八二年。西洋経済史、フランス史）だとか。そんな、しょっちゅう取り入れて。

#### 四・二 六九年東京大学留学時代と

##### 高橋幸八郎先生

今西 高橋幸八郎先生はそもそも戦前、京城帝  
国大学の先生だったんですよね。

安 それもあるしね。私、六九年に、早稲田で一年留学したんです。そのときね、実際は、高橋幸八郎先生にお会いするために行ったんですけども。

今西 そうですか。

安 当時はね、アメリカの燕京（イェンチン研究所・米ハーバード大学所在）、あそこに奨学金をもらって、日本に留学したんですけど。籍を早稲田においたんですけども、途中、東京大学に行っただんです。高橋幸八郎先生、社研（東京大学社会科学研究所）にいらしたんですよ。

今西 社研の所長ですね。

安 そう、高橋先生と関係してましてね。

今西 高橋先生は、何か植民地時代の思い出、語っておられましたか？

安 いえいえ。

今西 あんまり語っておられないですか。

安 高橋先生がね、京城帝国大学におられた、ということとは分かってたんだけど、それよりは、

「ドップ・スウィージー論争」と、高橋先生と関わったんですから。

今西 そうそう、英語論文を書いておられますからね。

安 高橋先生にお会いしに行つて、勉強したらできるかな、と思つてね。実はね、約六ヶ月くらいね、高橋先生に週に一回ずつ訪ねて行つたんです。

今西 ああ、そうですね。

安 いつもね、「土曜の午後に来てください」と。一時か二時か、今覚えていないんだけど、多分、二時くらいじゃないかな、と思つたんですけど。あそこに訪ねて行つたらね、いつも高橋先生のね、研究室にはね、濁酒どろしゅがいっぱいあります。いつも、訪ねて行つたら、勉強の方はほとんど、関わらない。

今西 まあ先生も大酒飲みですからね。

安 濁酒ね。一緒に飲むですよ。

今西 高橋さんと、昼から濁酒飲んで帰つてきたんですか。

安 身の回りの話とかね、そんな話ばかりでしてね。当時私ハーバード燕京のお金ももらつたんですから、ずいぶんお金あつたんですよ。当時の日本は貧しかったんですから、六九年だったんでしてね。私その時、月に二二五ドルもらつたんですから。

今西 すごいじゃないですか（笑）。

安 その時ね、一ドルが三六〇円だったんですから。金持ちだったんです。

今西 変動相場制の前ですから。

安 私そのお金をね、韓国の貧乏な学生たちに配ったんです。そのくらいのお金だったんでしてね。そうですから、高橋先生と一緒に酒飲むこともできるくらいのお金だったんですけどね。だけどね、高橋先生ね、面白いところはね、どこかといえますとね、午後ね、一緒に、酒飲むでしょ。二時から五時まで飲んだらフラフラしますから。一ヶ所で飲んで面白くないんだから、「一緒に出かけよう」と言うんです。高橋先生と一緒に出掛けたらね、夜の八時か九時までね、店を何ヶ所か移動するんですよ。(その度に会計してもらっては申し訳ないと) そう思ってた。私がお金を、「あ、先生、私が払いますよ」と言ったら、絶対許さななんです。「君こんなことやりましたら、ついてこなくていい」と。

今西 昔の先生はみんなそうですね。

安 高橋先生は戦前の人間でしょ。まったく戦前の人間でしてね、近代的なところは私よりも、ちょっと遅れてるんじゃないかという感じでした。どうしてかといいますと、当時の本郷通りね、車の速度が速いんですよ。八〇キロとか一〇〇キロとかで「ぼーっ」と走りますよ。信号があるでしょ。そうですからこうやっ

てね、「先生、信号で渡りましょう」と言ったら、「君、ついてこなくていいんだから。」と言う。堂々と(道を渡る)。(だけど)私、一緒に渡らなくちゃダメなんですよ。

今西 危ない(笑)。いや、あの頃はみんなそうですよ。私の先生たちも。

安 私、高橋先生がね、一回もね、信号を守ったことは見たことない。

今西 いやいや、大石嘉一郎(一九二七〜二〇〇六年。日本経済史)さんとかね。私の先生の古屋哲夫(一九三二〜二〇〇六年。日本近代史)さんとかもそうでした。

安 大石さんもしょっちゅうお会いしたんですけど。大石さんはね、私が八五年に行つて大石さんにお会いしたんです。

今西 大石さんもうすぐ飛び出して行くし(笑)。それはもうみなさん交通信号守らないんです。

安 夜九時か一〇時になりますと、約一時間くらいまで飲んだかな。やつぱり車が、バスだとかね、(最終)電車が切れて、ないんですよ。そうしますと、タクシーを拾って私、高橋先生と一緒に行って、高橋先生のお宅まで行って、私はそのタクシーで家まで戻ってくるんです。私がお金出すのは、タクシー代だけなんです。

今西 昔の先生はみんなそうですよ。高橋先生は、だけど何か、京城時代のことしやべつておられたことがありますか。

安 いえ、ほとんどしやべらなかつた。

今西 しやべらなかつたですか。

安 京城大学におられる時、勉強については何にもしやべられなかつた。東大門シソルドンの外側でね、新設洞シンソルドンというところでね、「濁酒を飲んでどのように楽しんだか」と。そんなことばかり!

今西 高橋幸八郎先生が、ああいう土地制度改革に関心を持ったのは、朝鮮の改革なんかの影響があるんじゃないかという気がしてるんですけどね。ああいうフランスの土地制度を研究したことの関係が気になります。

安 いや、高橋先生が私に教えたのはただひとつ。「君、民族資本とは何か分かるか」と。(私は)「分かりません」って。「民族資本というのは産業資本ですよ」って。私が覚えてるのはそれしか。それ以外はみんなもう、人間関係について話したり、そうやってね。学問については(特に話を聞けなかつた)。

私があそこで失敗した、私が学者としては失敗したな、と思うのは、その時、高橋先生がこんなこと私に提案したんです。「君ね、もうちょっと日本に留学してね、勉強しないか」と。そんなことを提案したんです。そのとき(仮に)「はい」、私が「ありがとうございます」と。「先生の下で勉強したい」と、そう言っていたら、私も「資格がある」研究者になつたかもしれませぬけどもね。

今西 いや、今でも十分資格のある研究者です(笑)。

安 で、そのときに「国に帰ります」と、言っちゃってしまつて。実は私は正式に、学者として、訓練を受けたこと一回もない。私の考えで、必死にできるまでやってきた。これがね、学者としても、よくできていない人間として失敗したんじゃないかな、と思つて。

#### 四・三 七〇年代ソウル大学教員時代と

##### 学生運動

今西 最初そういう民族主義の影響を受けて、だけどその後その民族主義を否定されるようになったわけですよ。そういう民族主義って考え方は間違いだと、かなり批判をされるようになってくるわけですよ。

安 そこでね、私の考えが変わつたのは、七〇年代いっぱいまではマルクス主義者として、学生運動理論家として頑張つたんです。そこで、運動組織にも入つて、なんとか頑張つたんですから。いつもね、「韓国現代史の課題は何か」と。そこから、関心が離れたことはなかったんですね。どうしてかといいますと、約三〇名、四〇名くらいのソウル大学の学生たちは、みんな労働運動に出ましたんですから。私が教育してね。その人たちに責任を取らないとならないんですよ。その問題ばかり考えて。大学

の教員として、(学生たちが)飯を食えないとダメだから、それやっただけで、(だから)本職はそれじゃなくて、運動だった。だから体系的な研究というよりも、「運動の理論をどのように提供するか」と。だから私はひとつの研究の題目で落ち着いたことできなかった。(研究者なら)いつでも、色んなもの読まなくちゃダメなんですよ。だから、読むのは読むんだけどね、私の理論がひとつの分野を開いてね、研究するということがほとんどできなかったのはそこなんです。私、研究者としての資格を取る、持つことはできなかったんです。まあ勉強はするんですけどね。

それでずっと研究して、私なりに勉強してきたんだけど、七九年にね、私が、朴大統領が亡くなるということを予測したんです。運動を中心としてやってみますとね、政治の動きを動かがあるごとに敏感に、判定しなければならぬ。認識しなければダメですから。七九年に入つてね、朴大統領の話がね、混乱するんです。その人(朴大統領)ね、「もう長持ちしない」と、分かる。我々としてはね、七九年の八月くらいに、そんな判断になつちやつたんです。「あ、朴大統領亡くなつたら、韓国の資本主義は崩れる」と。「社会主義に転換する」と。それがね、当たつたんですよ!どうして当たつたか分からないんだけど。

今西 当たつたつて、すごい勘です(笑)。

安 一〇月二六日(一九七九年)に、暗殺されたんですよ。あそこでね、我々は「我々が正しかった」と。「もうこれから社会主義革命が起こるはずだ」と。けどどちらようどその頃ね、組織が潰れちゃつたんです。私が所属していた組織。その時ちようど朴大統領亡くなつて、民主化の時代になつたんですけど、その前に、「南民戦」という組織が捕まつた。その組織のメンバーのふたりが元々我らの組織にあつた人だった。

今西 ああ、「南民戦事件」(一九七九年一〇月九日から一二月三日にかけて南民戦の主要メンバーが国家保安法、反共法違反の容疑で公安機関により摘発される)ですね。

安 その組織の人間がね、我らの組織の存在をね、報告してしまつた。こつちも約五〇名くらいになる組織だったんですけど、それをみんなもう、諜報機関に報告されちゃつてしまつたんですから。それもみんなもう、調査、逮捕されちゃつたんです。

今西 名前はどうしてたんですか、その五〇人の組織についてのは。

安 名前はないね。

今西 名前はないんですか。

安 どうしてかかつていうと、我らがね、どれくらい敏感だったかといいますと、「名前を作つ

たらきつと殺される」と。「絶対名前は作らない」と。一回でね、絶対覚えるべきでしてね。書き置いたらダメだと。

今西 記録を残さないよ。

安 (組織規則の)三番目はね、一緒にお会いする時、三人以上絶対会わないこと。三人になりますとね、組織というのは、証明されるんだから。

今西 そうですね。非合法闘争の原則ですよ。ね。

安 どうしてかと。命をかけてやってるんだから。これはね、絶対危ないんだから。だけどそれはね、組織が発見されて調査してみてね、何も証拠がない。組織があるということは分かる。どうしてかといいますと、五〇人の中でね、四〇人がね、労働運動をやつてね。ソウル大学卒業、一流大学卒業者がね、卒業もしなくて、労働現場にみんな入っちゃつてんだから。それが結果として分かるのは聴講生というのとは聞えない。だけど、何もなし。名前もないし、書いたものもないし。向こう(当局側)にも、組織がみんなばれたんです。だけど、それ彼らが作った(把握していた)組織でして、こつちで書いてあった(名前を付与した)組織じゃないんです。

だけでも、朴大統領が倒されてしまったんですから、民主化時期(朴正熙暗殺後、同年一二

月二九日に全斗煥などの新軍部勢力による粛軍クーデターが断行されるまでの時期。「ソウルの春」になつたんですよ。だから無理に調査できない。私が組織委員であるというのは、ばれたんですけどもね、私を逮捕することもできない。どうしてかといいますとね、大学教授はね、無理に対応したら、自分が困るでしょ。私、一回も調査されたこと(はない)。その前

まではね、ずいぶん、警察に連れていかれて、拷問されたりしてたんですけど。その時はちょうど、全斗煥(一九三一年〜。大韓民国第一二、三代大統領。在任一九八〇〜八八年)が実権を握る前だったんですから。

今西 光州事件(一九八〇年五月一八〜二七日。民主化を求める学生や市民が韓国軍と衝突し、多数の死傷者を出した事件。「五・一八光州民主化運動」の前ですね。

安 ええ。だからね、その人たちはみんな、警察で、処罰されるといったんですけども、検察庁ですか、そこに行つてみんな否定したんですから。それで、裁判にかけることさえ、できなかった。二人を除いて。二人は何か、証拠があったから。それ以外はみんな釈放された。それで組織を解散した。

#### 四・四 八〇年代東京大学教員時代と

##### 思想的転換の契機

今西 その頃から、そういう民族闘争の評価について、先生の考えが少し変わってきたんですか。

安 いや、そこでね、組織から解放されたんですよ。組織の中にいる時は組織人として、メンバーとして考えなければダメだけど、そこからね、解放されて。それで全斗煥は、実権をとつてね。全斗煥が、それ(独裁政治を)やってるのに、韓国経済が復活されてくると。これがね、ショックだった。

それと、私ね、八一年から「東京大学に来て教えないか」と、提案があつたんです。だけどその時、全斗煥によつて大学教授六二名が追い出されたんですよ。みんな私の同僚ですから。私日本に留学したらもう、裏切り者になっちゃうから。だから「行けません」と。その後その人たちがね、八四年秋学期からみんな大学に復帰したんです。そこで、その同僚みんなと相談して「君たちみんな復帰したんだから、私日本に留学してもいいか」と。(すると同僚は)「いや、君ね、苦労したね」と言ってくれた。実はその四年間非常に苦労しました。私は大学から追い出されなかつたんですけど、その人たちみんな追い出された。(大学が)お金を(私に)提供するとか、なんとかね。そうしなかつたんですよ。(それで同僚が)「君ね、四年間も苦労したんだから、留学しなさい」と。



今西 それで東大行くわけですね。

安 それで八五年三月から、東大に行ったんです。

今西 東大はどこ行かれたんですか。大石（嘉一郎）さんのところですか。

安 いやいや。

今西 石井さんのところですか。

安 石井さんが受け入れ教授だったんでしてね。

今西 石井寛治（一九三八年〜）。経済学者、歴史学者）さんですか。

安 実はそれを紹介した人は、労働経済学やってる人。石井さんよりは二、三年先輩ですけど。中西洋（一九三三年〜）さん。

今西 ええ、中西さん。中西洋さんね。

安 中西さん、紹介してもらったんだけど、専門は労働経済学でしょ。私、経済史ですから、石井さんに頼んだみたいです。そこで石井さんが受け入れ教授になって。

今西 まあ、石井さんは紳士ですね。クリスマスチャンで。大酒飲みではないですよね（笑）。

安 日本に行つてね、石井さんとお会いして、ちよつと生活してみますとね、いや、これは日本近代が作った、一番最高の傑作だと分かりました。すごいもんね。だから、前までこういう考え方、合つてるか分らないんだけど、やっぱり、大塚（久雄）文化が作ったね、最高の傑

作。石井さん。今でも私その考え、変わらないんだけど。

今西 石井さんは山田盛太郎（一八九七〜一九八〇年。マルクス経済学）を一番尊敬してるんですけどね。

安 ああ、そうですね。

今西 あの人の先生というのは、山口和雄（一九〇七〜二〇〇〇年。日本経済史）なんですけどね。

安 山田盛太郎ですか。

今西 山田盛太郎派ですけどね。

安 人間としては、明治維新の時の、坂本竜馬を一番尊敬していると言っていましたけど。私に、いつもね。その写真を置いて「一番尊敬してる」と、そう言っていましたけど。

今西 いや、私も石井さんとは、二年ほど研究会一緒にやらせていただいたことがありますけどね。ほんとにジェントルマンですね（笑）。

安 いや、その人ね、日本人は日本人だけど、日本人という感じがほとんどないね。「人間」という感じ。そんな感じ。

今西 まあ、本当に真面目な人ですね。安 日本人は日本人みたいなところが、においがあるんですよ。その人にはそんなにおいが無い。「ああこの人、人間だな」、って感じ。

（ところで、私が）日本に行つて、一番最初に、私に電話してくれたのは総連（在日本朝鮮

人総聯合会）系でしょ。総連の人たちいっぱい来てね、私を利用して、何か運動したいと。当時私にはその、ネームバリュー、ありましたから。

今西 今でもネームバリューありますよ（笑）。

安 私を利用して韓国で民主化運動に使うこともできるかもと。そのくらい（知名度が）、私、あつたんですから。だけども、総連系の人間にお会いしてね、たくさん来ましたけどね。お会いした時にすごい（ショックを受けた）。

私はね、独裁の国で育つた。こつちでね、外国に留学したことないですから。六九年に、東京に留学した一年。それしか（ない）。アメリカに留学した経験もないですから。総連系の間

はね、私よりも（考え方が）うんと遅れている。（それは）発言（から）も、確認できました。どうしてこの人たちがね、日本の、こんな先進国に住んでるのに、こんな遅れてる考え方なのかということ。私はね、実は、嘘じゃないんですよ。私は独裁の国の出身だから、一番遅れてましたと。（だから）東京に行った。そのように考えて、行つてみますとね、こんな人かと。

今西 そこで失望したわけですね、北に対して。安 そこでね、北はね、全然ダメだった。そこで総連系の人に私質問ひとつ、したんですよ。

「どうして、金正日が後継者か」と。私が読んだ社会主義理論ではそんなこと（世襲はありえ）ないんですよ。「それ説明してください」（と言うと）ただ一人もね、説明できない。（説明できたとしても）その中の一人の説明が何かといいますと、「一番能力がある」と。だから後継者になったと言ってるんです。だから私、（続けて）質問したんです。「能力というのは何か」と。「君と私の間で、花札してる」と。花札っていうのは韓国人はしょっちゅうやってる、日本の文化。「君は、私がつてる花札が何かということは分かるはずだ」と。「私は君が持っているのが（何か）分からない」と。「誰が勝つか」と。（彼らは）「自分が勝つ」と、言ってるんです。だから私が、「君、（そうであれば）正日がどうして負けるということが分からないのか」と。その質問をやったんです。私、（そうやって）生命を賭けて、質問したことあるんですけど、その論理自体は分かるでしょ。だから、（金正日に対する）「安易、暴力、悪」（というキーワードに基づいて、金正日を）ばかにすることいくらでもできる。（それはつまり、彼に）能力がないんです。その人たちはそれに対して反論ができない。だからその後から私をもう訪ねて来なかった。

今西 総連を撃退して（笑）。でも、考え方の影響を受けた方はいるわけですよ。

安 それで、社会主義諸国から東京にいつぱい、東京大学に留学してる学者だとか、学生がいたんですよ。ゼミ、しょっちゅう入ってみてみんですよ。社会主義諸国はどうかと。（そうしたら）全部、自分の国の批判ばかり！

今西 自分の国の悪口言ってる（笑）。

安 そこで何かちよつと、中国の社会科学院（一九七七年設立。中華人民共和国の哲学及び社会科学研究所の最高学術機構）だとか、ソ連の社会科学院だとか、そこから来てる人たくさんいたんですよ。討論してみますとね、マルクス理論が分からない。

今西 マルクスを勉強してないでしょうね。

安 がっかりした。私はね、独裁の国でね、思想的に禁止されて、それを勉強したのに、どうして、それらの国々では書物がいっぱいあるんですよ。どうして勉強しないのか。そこで分かった。よくよく考えてみるとね、分かった。どうしてか。「社会主義諸国で知識人はね、マルクス主義理論をよく分かってない」、ということが分かったちゃつたんです。（その理論が分かってしまつたら）反論するでしょ、権力者に。

今西 そうですね。

安 いや、これはね、「独裁というのは社会主義独裁も資本主義独裁も同じじゃないか」と。そこでもう「社会主義、ダメだ」（となつた）。そんな考えをもつてね、一年東京大学で勉強し

て、講義もしたんですけども、講義よりは私、勉強のために行つたんですけれど。

（それと、この時）京都大学に行つて中村哲（一九三一年〜。経済史）さんにお会いして。その人も、ショックなね、発言をするんです。「いや、安さん、社会主義時代はもう終わつた」って。「今からね、資本主義時代になるんだから」って。

今西 資本主義はますます発展する。

安 「あなたの国もね、韓国経済はね、資本主義並みになつてしまふ。（そういう）波頭に乘つてる国ですよ」と。そんなことしゃべつちゃつて（笑）。最初、もう「あーっ」と思つただけでも。その前に（前述した通り）、東京大学で、そんな経験があつたんですね。（それで）「社会主義はダメだな」、つて思つたんです。韓国に住んでいた時、「朴大統領亡くなつたら韓国経済ダメですよ」つてこと、考えたのに、そうじゃなくて意外にね、韓国経済復活してびつくりした。そんなことがあつて、中村さんお会いしてみますとね、いや、すごいことしゃべつてるんじゃないかと。当時にはね、（リチャード・ニクソン（一九一三〜一九四年。第三七代アメリカ合衆国大統領。在任・一九六九〜七四年）を中心として、資本主義が発展するという、それ、はつきりそのように言ってる人、（当時日本で）ふたりしかいな

かった。中村さんと、森田桐郎（一九三一〜九六年。国際経済学）。森田桐郎というのは、東京大学にいらつしやつたんですから。私と一緒に。

今西 森田さんも若い頃は京大の学生運動の活動家だったんですけどね、マルクス主義者ですね。

安 そのように考えて（いくうちに）、その後から、だんだん考え方が変わつちやつてね。前に先生に申し上げた通り、「自由というのはどんな意味か」と。「平等」というのはどんな意味か」と。そんなこと私、考えるようになりました。

今西 でも、早いですよね。民族主義を批判されてからね。そうやって自ら考え直して、世界の中で韓国を見直すという。

安 いや、それより考えてみますと、自由と一緒に外側から入ってきたのがグローバルイズムなんですよね。これもう、グローバルイズムは民族主義とは反対。相対的に自分の国のために何か、愛国心ですか。それはもう相対的な愛国心は必要だ、今でも必要だと（思っています）。

それはね、愛国心のためにじゃなくて、自分が所属している共同体を大事にすると。そのくらは、国じゃなくても、必要だと思えますよ。

自分の住んでる村とか、これを受する。当然じゃないですか。自分のね、隣の人間を受する

ということですから。

その意味でしたら、私は民族主義というものも分かるけど、それ以上じゃないということね。

それよりはやつぱり、世界の人間というものはもつと正しいんじゃないかと。そのように考えるようになりました（笑）。それはもう韓国がね、今のようですね、繁栄するというのはね、これはね、絶対ね、世界人類に（対して）ありがたく考えなければダメだと思いますね。ええ。そんなこと（笑）。

## 〈第二部〉

### 「慰安所」についての話と

### ソウル大学時代

（二〇一三年刊行『日本軍慰安所』

管理人の日記）を中心に

### 前編 『日本軍慰安所管理人の日記』 について

#### 一・一 韓国挺身隊問題対策協議会

今西 安先生が「慰安所」の資料を見つけて、

活字（邦題では『日本軍慰安所管理人の日記』）にされましたよ。九〇年代から「慰安婦」（以下、「」は省略する）のことをやっておられましたよね。

安 ええ、韓国には挺身隊というのがありますね。その姉妹団体として「挺身隊研究会」というのがありまして。そこで女性たちが集まっていたんですけども、私は植民地期、一九三〇年代までの専門ですから、ちよつと手伝わないとダメかなと思つてね。私、その変な義務感がありますから。

今西 いえ（笑）。

安 それで私、一緒にその元慰安婦の調査に参加しまして。一年か一年半くらい頑張つたんですね。（それを）どうして途中でやめたかといえますと、（その理由は）ふたつなんです。ひとつは何かというね、（挺身隊では）挺身隊と慰安婦を区別しないんです。だから、私が知っている限りそれはもう完全に研究ではないと思つたから。研究者は事実を確認しないで、それをあいまいにしたらダメだと。だから、僕こう言つたんですね。「これはダメですよ」と。それがひとつでしてね、もうひとつは何かといいますと、調査というのはね、元慰安婦という、慰安婦女性を調査するものなんですけど、ここはね、誰でも率直に言えるところじゃないんですね。そうですから、これ非常に人間

的でね、難しい所がある。事実を追及することが非常に難しい。私はね、慰安婦たちから非常に苦しい生活を語られたんですから。

だから一回でもね、本当のことを語って、整理する。これでいいんじゃないかと。私はそのように思っただけですよ。だけどね（笑）、その人たちはみんなもう、反日運動としてそれやっています。だから、これではいけないと思っただけです。反日運動（として）やることを。これは非常に辛いところですね。これをもつて反日運動をやる。これはダメじゃないかと。（途中で挺対協から抜け出した）ひとつの理由として。

### 一・二 『日本軍慰安所管理人の日記』の

#### 翻訳と出版権

今西 先生の本『日本軍慰安所管理人の日記』は今、堀和生（一九五一年）。京都大学経済学部教授。専門は東アジア経済史。さんたちが訳しているんですよ。今度の慰安婦の本は日本語訳を出すということですが。

安 いやいや、すでに翻訳されました。翻訳されてね、出版しようと思っただけです。

今西 出版がまだなんですか。

安 向こうがね、「出版権がないと、日本では出版ができないんですよ」って、言ってる。堀さん（によりますと）ね。それは日本の事情で

すから。

石川 出版権というのは、「著者の」ということですか。

安 あの本、出版権がないんです。その著者がね、亡くなったんです。

今西 ああ、生きておられないんですね。

安 だけど、その後孫（子孫、遺族のこと）が残ってるでしょ。その人が亡くなったから、五

〇年経たないとね、著作権、その後孫に、その子どもたちに、あるんですよ。だけどね、そんな本を出版しようと言って、その人たちに、交渉してもできないんですよ。もちろん、

聞かなかつたら無礼だと。だけど、資料として出さなければならぬんですよ。だから（だから後で印税を）返そうと思っ、出している。私の責任でね。その代わり印税をね、私が貰うん

じゃなくて、その人のために預かっておく。だから、その後孫が現れてね、「その出版権、我々にありますよ」と言ったら、いや、「これ（受け）取ってください」と（言っ渡そうと）。

そうすればいいんじゃないかな、と。これ、私の勝手な判断ですよ（笑）。これ、法律的にどんな意味があるかそれは分かんない。そんな本は、日本では（出せないですから）。

今西 だけど、もつたいないですよ。どこか学術雑誌でも発表してくれたらいいんですけどね。雑誌か何か、大学の紀要とかそういうところ

ね。営利目的じゃなく翻訳を載せれば、いいと思っただけね。

安 それ、素晴らしい発想じゃない。翻訳権は、二人（堀和生、木村幹・一九六六年）。神戸大学国際協力研究科教授。専門は比較政治学、朝鮮半島地域研究）が持っていますから。今は落星堡研究所のホームページに載っています。

今西 でも、翻訳は載ってないでしょ。

安 いやいや、翻訳。

今西 載ってるんですか。

安 落星堡研究施設のね、ホームページに載せてます。韓国版もありますよ。

石川 ええ。じゃあ本で出版されているのは、韓国語の。

安 ええ。

今西 原史料はかなり漢字が多いから、私でもある程度意味がとれるんだよ。多分こういう意味だろうな。

石川 日本語と漢字と、ハングルが混ざったもの。

今西 そうそう、原文はね。

安 原文はね、主に漢字とハングルなんですけれども、日本語も少し混ざっています。日本語でね、地名とか、そんなところ（に混ざっています）。

### 一・三 『日本軍慰安所管理者の日記』の内容

今西 あの本、裁判の記録の部分が面白くて読みやすいですね。あの、付録についている一番と二番の記事があるでしょ。あれが分かりやすいですよ。

安 あれ、裁判の記録じゃないんです。アメリカ連合軍の調査記録なんです。連合軍が二〇名だったかな、二〇名の朝鮮人慰安婦を捕虜として捕まえて、そこで調査したものだ。それでその二〇名がね、日記を書いた著者と、一緒に釜山港からビルマに向かって発った人なんです。だからその、調査記録とその日記を合わせてみますとね、ずいぶん、その詳しいのが読みとれる。だからね、ふたつとも最近の記録じゃなくて、ずっと前の記録なんです。だからずいぶん客観的な資料として読みとれる。そうですね、私、ふたつを付録として載せました。(それと)これはね、何かといいますと、四三年の後半期の日記があります。全部そろってますけども、これ(四三年の調査記録)は抜けてます。

今西 そうそう、四三年がないのは確かにもつたいないですね。

安 これもつたいない。あそこあったら、どのように公募したかということが分かるんですけど。(ただ、)どのように募集されたかというところが、その付録の、連合軍の調査の記録の中にあるわけなんです。そこできちんと話されま

す。そこで、「何人が一緒に出発して」という記録など、それ、みんなあります。そうですから、この日記をもって何が研究できるかといえますと、南方に連れられていった慰安婦たちの実態がはつきり分かる。中国はもうちよつと形が違うかもしれないけどもね。南方に行つた人たちはもう、確実なんです。これは「第四次慰安団」として動員されたんです。第四次ですから、第一次、第二次、第三次と当然あったんですね。この日記の中でも、慰安団という単語がただ一ヶ所しか出てこない。そのぐらいね、秘密にしたものがばれちゃつて。

こういう慰安団があつたつてことは、藤永壮(一九五九年)。大阪産業大学人間環境学部教授。専門は朝鮮近現代史。濟州島、日本軍慰安婦研究などに関する研究がある)の研究がある(藤永壮「戦時期朝鮮における「慰安婦」動員の「流言」「造言」をめぐって」松田利彦他編『地域社会から見る帝国日本と植民地―朝鮮・台湾・満洲』思文閣出版、二〇一三年参照)。(ある人の)「風聞」の中で、「慰安団がある」と。ある朝鮮人が二人、しゃべつてる(とす)る)じゃないですか。そういうことをしている)と、警察に捕まって処罰されるんです。

石川 ええ、そんなこともありますね。

安 その処罰される記録が残つてますから。びつたり合う。風聞は嘘じゃなかつたと、事実

だったということ。藤永さんは風聞を研究したんです。有用性のある資料としてね。

石川 警察に摘発された、流言飛語についての研究としてされたと言つておりました。

今西 まあ極秘ですからね。

石川 日本国内でもそういう流言飛語、というか風聞としては伝わつていて。

### 一・四 軍慰安所関係者の話と慰安婦研究者

今西 ただ、私の知り合いの先生でね、福永光司さん(一九一八〜二〇〇一年。中国思想史)という、日本の道教研究をやつておられましたけど、彼が軍隊にいた時に、その中国戦線で「慰安婦狩り」(女性の強制連行)の責任者をやつてたんですね。彼がまあ、少佐までいつてないんだけど大尉ぐらいまでだったと思うんだけど、軍の命令で、中国人を何人狩つてくる、女性を何人、慰安婦を連れてくるということを命令されて、それを命令する係をやつていたんだね。彼はそれで戦争をものすごい嫌になつたんですね。その福永さんにその話を書いてくれつて言つてただけども、とうとう書かずに亡くなつてしまつた。やつぱりなかなか、自分がそういうことをやつていたという話をしたくないみたいだね。中国の最前線で、「三光作戦」(三光とは「殺光」「焼光」「搶光」を指し、それぞれ「殺し尽くす」「焼き尽く

す」「奪い尽くす」の意。主に中国華北で展開された抗日ゲリラ対策として、一九四〇年八月二日以降日本陸軍の北支那方面軍を中心に行われた、これら地域住民根絶作戦。「儘滅作戦」なんかをやつた地域ですからね。

安 慰安団というのはね、慰安団を発想したのが、日本軍大将の一人として、岡村寧次（一八八四〜一九六六年。一九三二年に慰安婦案を創設）という人いますね。その人が、一九三八年、武漢ですかね。その頃その人、慰安団を作つて活動してた。その発想がそのまま、武漢のところにあつた慰安団ね。そうですから、慰安婦は、軍によつて動員されたということは間違いない。

今西 そうですね。  
安 武漢に、業者を連れて回つたという、それはあつたんです。  
今西 業者が勝手に前線には行けないですよ、前線まで連れて行くわけにはいけません。業者は、軍の許可がなくては行けるはずがないです。

安 それと、慰安所の類型が三つあると書いてます（詳しくは吉見義明『従軍慰安婦』岩波書店、一九九六年、七四頁参照。これによると「第一は軍直営で軍人と軍属専用の慰安所、第二は形式上は民間業者が経営するが、軍が管理統制する軍人・軍属専用慰安所、第三は軍が

指定した慰安所で、一般人も利用するが、軍が特別の便宜を求める慰安所である」。ひとつは「軍直営」というもの。ひとつは「軍専用」というのがありまして、もうひとつは、一般慰安所の中で、特に利用する優先権をもっているもの。これ三つあるといつてるんですけど。私がちよつと調べてみますとね、「軍専用」つていうのが主なものでして、残りのふたつはね、一般的なものじゃないと、分かりました。石川 専用というのは業者が運営して、軍の…。

安 専用というのは何かといいますと、「派遣軍」といつてるんです。満州の派遣軍だとか、華北派遣軍だとか。派遣軍が計画を立てて、動員するんですね。動員して、もちろんその中に業者も中に入るんですけどもね。その時の業者というのは、御用業者なんです。勝手な業者とかじゃなくて。御用業者が経営を軍の代わりに行つた。どうしてかといいますとね、慰安所といふのはね、兵站のひとつの組織。それを今まであいまいにしていた。そうですから、慰安所というのは完全に軍の財産です。所有権はもちろん軍。御用経営者が管理するだけ。石川 じゃあ組織としてはもう軍の一部としてやつていた。

安 そうそう。  
今西 軍の人間がやつていた。その、福永さん

も言つてたけど。それからもう一人、私の知つてる人で、そういうことをやつたことがあるつていう経験者が鶴見俊輔（一九二二年〜）。哲学者。戦前は米國留学の後、兵役を避けるため海軍軍属に志願し一九四三年にインドネシアのジャワ島に赴任）さん。「慰安婦」係やらされた。

石川 中曽根康弘（一九一八年〜。第七一〜七三代内閣総理大臣。任期…一九八二〜八七年。海軍将校（主計中尉）時代の四二年、ボルネオ島でインドネシア人女性を集めて慰安所を開設したとされる）が、やつぱり慰安所の経営に動員されたと。

今西 中曽根さんも動員したと言われているよね。中曽根さんは少し書いてますよね。

安 だけど一番そのところをよく研究なさつている方が、永井和（一九五一年〜。京都大学教授。専門は日本近代史）さんですね。

今西 ああ、永井和さんね。

安 まあ、きちんとした実証勉強をやらされて。今西 ええ、資料をきつちり使つていますよね。

安 やつぱり永井和さん。もちろんね、研究者として有名な人は、誰かと（いうと）、中央大学の吉見義明（一九四六年〜。中央大学商学部教授。専門は日本史。慰安婦を中心に日本軍によつて被害を被つた人を対象に多数の研究あ

るいは活動を行う)さん。(でも)永井さんはね、論文一本しかないんだけど、非常にきちんとした実証研究。

今西 『二十世紀研究』(京都大学大学院文学研究科)の創刊号(陸軍慰安所の創設と慰安婦募集に関する一考察)二〇〇〇年)は、面白かったけどね。

安 その人(永井さん)はね、日本軍の歴史をやっている人ですから、非常によく研究している。

## 後編 ソウル大学時代の話と経済史

### 二・一 退官後について

石川 先生はソウル大学を退職されて今、何年ぐらいになりますか。

今西 もうずいぶん経ちますよね。

石川 一〇年ぐらいですか。

安 ええ、二〇〇一年八月末に退職しました。

石川 ああ、ではもう一〇年以上になりますね。

安 そうですね。(その後)福井県立大学で四年ぐらい勤めて。

石川 そうでしたね。もうその後は大学にはお勤めにならなくて、ずっとご自宅の方に、い

らっしゃったんですか。

安 そうです。

今西 社会活動を色々やらられててね。ニューライト研究所もやっておられた。

安 うん、最近、引退しましたけど。

今西 引退されたんですか。

安 もう歳でしてね、もうこれ以上はね。

今西 いやまだお元気です(笑)。大丈夫ですよ。

安 私の予想ではね、八〇まで、何かその、学術的な論文じゃないんだけど、何か、文章は書けるんじゃないかと思って。今、(もう体は悪くて)目しか残っていないんですよ。だからこの間に、書きためたものちよつと整理しておかないと。もうじき義務を果たすことできないかと思って。それをちよつとやりたいんです。

今西 ええ、書かれたものをまとめられたらいいと思いますけどね、これからね。もつたいないです。中村先生も「八〇歳が本当の定年だなんて思う」って言ってましたからね。私は八〇までもたない、生きているかどうかも分からない(笑)。

安 中村先生は八五で論文、書きましたからね。

石川 はい。

今西 でも、中村先生のお友達の松尾尊兌(一九二九〜二〇一四年。京都大学名誉教授。専門

は日本近現代史)先生という現代史の先生。まだ本を書いておられる[編注:二〇一四年二月現在]。八五歳で本を書いている(笑)。まあ昔の論文をまとめられたんだけど、それにしてもすごい。(松尾尊兌『大正デモクラシー期の政治と社会』みすず書房、二〇一四年)

安 素晴らしいですね。

今西 八五歳の人から本を送ってもらうとは思わなかった、びっくりしましたね(笑)。先生方が元気に頑張っておられるから、こつちが辞めるといわけにはいかない。私より二〇くらい上の先生方が。あの先生方はスーパーマンです。

### 二・二 北海道内の国立大学と高等商業学校

安 (今西)先生は今、どうなさってるんですか。

今西 もう(二〇一四年)三月で、小樽商科大学の特任教授をやめて、四月からは、大阪大学の招へい教授で、行くことになっていまして。

小樽商科大学の特任教授です[編注:二〇一四年二月現在]。

安 おお、そうですか。小樽(商科)大学は国立ですか。

今西 ええ。今はまあ、独立行政法人という名前に変わってしまいましたけどね。日本で一番小さい国立大学です。それ気に入ってるんです。

けどね(笑)。教員が二二〇人ぐらい、学生が二四〇〇〇〜五〇〇〇ぐらいですかね。非常に小さい。

安 そうですか、北海道に国立大学はふたつというのをちよつと(聞いたので)。

今西 いやふたつではないですよ、もつとありますよ。

安 あ、そうですか。

今西 北海道大学が国立大でしょ、それと、教育大学だけで北海道には分校が四つありますけどね。それから帯広畜産大学、室工大(室蘭工業大学)、それから旭川医大。国立はだから、四つか五つあるんじゃない。

石川 北見工業大学もありますね。

今西 そうですね、北見工業大学も入れて大きな大学が五つかな。だから、九州と違うのは、九州は全部総合大学でしょ。佐賀大でも、熊本大学でも。北海道は、不思議と北大以外は単科大学ですよ。だから小樽商科大学でしょ、北見工業大学でしょ、室蘭工業大学でしょ、旭川医大でしょ。どれも単科なんですよ。教育大もまあ、単科みたいなもんですからね。教育学部だけしかなくて。だから北海道と九州の大学は非常に違うんですね。

安 韓国ではね、小樽商業学校っていったら、非常にいい。

今西 ああ、小樽高商(小樽高等商業学校)で

すね。

安 ええ、小樽高商。やつぱり東京高等商業学校の後、小樽という。

今西 そうですね、山口高商(山口商業高等学校)とかもそうですね。

石川 商科大学としては歴史は古いですよ。

安 韓国人も、それ(留学で)行きますよ。

石川 留学生も多かったんじゃないですか。今でも多いと思いますけど。

安 そうしますと、大分は何番目くらいですかね。大分高商(大分高等商業学校)と、いつてるんですよ。

今西 大分高商もありますね。あれは、何年くらいかな。そんなに古くはないはずですね。

石川 二〇年代にたくさん高商ができるんですけど、その時にできたんじゃないかなと。

今西 小樽はもう明治の末ですからね。結局日露戦争で勝って、南樺太を取って、やつぱり北にどうしてもそういう拠点をひとつ作らないといけないということになって。それで小樽に置いか函館に置かか、大論争になるんです。そこで、地元の資本家たちが頑張って小樽に置いたんですよ。函館が負けたんですよ。商業都市としては函館の方が規模は圧倒的に小樽より大きかったですけどね。だけど小樽はむしろ日露戦争が終わった後、南樺太を取って、南樺太に移民を送るときの港として発達するん

ですけど、小樽はそれで人口も急増するんですね。だから昭和前期は小樽は非常にもう札幌と並ぶ人口になって。銀行とかああいうのは全部小樽に集中するから、「北のウォール街」と言われるぐらい繁盛するんです。ある意味では札幌よりも小樽の方がモダンになるんですよ。

映画館の数も多いし。で、最終的にお互いに二〇万くらい。戦後はもう「ばーつ」と人口差がついて、札幌が大きくなりますけど。札幌は今もう二〇〇万弱ですからね。小樽はもう一三万ぐらいまで落ちて、大正時代ぐらいに戻ったような(笑)。

石川 減少してるんですね。

今西 そうそう、急速に減少してるよね。

## 二二三 ソウル大学学生時代の講義と

### 共学の有無

水谷 先ほど安先生の、ソウル大学の時のお話をお伺いしたいんですけど、もう少し学生時代の話をお伺いできればと。先生はすごく勉強なさって、図書館にずっといらつしやつたということなんですけど、他の学生だったりとか大学の雰囲気とかっていうものはどうだったんですか。

安 私はやつぱりね、ソウル大学の教員ではあったんですけども、運動半分、教育半分、そのくらいだったんですね。やつぱり運動の方



は前にしゃべった通り、我々熱心にやったんですけども。

今西 教員時代の話もお願いします。

安 いや教育もね、ある意味熱心には熱心だったんです。私の信条は、当時の教員は講義がある日にちはね、変な形でやるんです。だから私は講義に集中するんです。(変な形とは何かという)ソウル大学時代、私が学生の頃の影響なんです。当時の授業は三分の二くらい休講でして三分の一、講義をするんですけども、講義をする比率も、その講義時間の三分の一くらいしかしないんです。それも私理解できるものがないんですよ。通常は、大学教授ができるぐらいの資格がある方が、大学教授やるんですけど、戦前に普通に大学卒業した人たち、研究しなかつた人がだいたい教員になった。私はそれをちよつと反省すべきじゃないかと思つて。私その当時の状況については何も分からないんですけども、だから私は絶対休講はダメだと。時間をカットするのもダメだと。それで、韓国経済史をきちんと整理するんだとか、そんなことできなかつたんですけどもね。その代わり、だいたい、夜遅くまで研究室に残つて何か見た(読んだ)ことは事実なんです。それでも学生たちとゼミをやつた。それは、ずいぶん熱心にやりましたね。他の学生に研究室を譲つて、夜九時

まで電気がついている研究室が、私の研究室だとか(笑)。何人かしかいなかったんですから。(でもその当時、)どうして韓国近代経済史をまとめること出来なかつたかといひますと、やつぱり教科書、韓国近代経済史を説明できる模範的な教科書がなかつたんですね。私の考えなんですけれどね。そうですから私がその、模範的な教科書を書かなければならないんだけど、それは難しい。今なら「少しできるかな」という感じがしますけど、もう、教員の資格がないんですから(笑)。

今西 ソウル大学つて、戦前から男子校だったんですか。京城帝大は男子だけなんでしょ。女子学生が入ってくるのは、戦後ですか。それとも戦前もいたんですか。

安 いや、どうだったでしょうか。女子学生がいた、という話は聞いたことないですね、戦前は。

今西 戦前は、京城帝大はいないですか。

安 ええ、聞いたことがないんです。私、一人もお会いしたことない。

今西 女性で京城帝大卒業生つて聞いたことがないですよ。女性が大学に行くこと自体がもう、戦後だから。

安 規模からすると、共学だったんですけど。だけどね、女性の数が非常に少ない。どうしてかといひますとね、女性は競争できなかったん

ですから。

今西 行かすこと自体、親の方に抵抗がありましたからね。

安 最近ね、女性が強すぎるね。最近男性に負けてない。日本もそうだと思いますけど。

今西 だいたいそうですね(笑)。

## 二・四ソウル大学教員時代と韓国経済史

石川 ところで先生の歴史の方の先生はどなたになられるんですか。その、ソウル大学の学生時代に、歴史を教えてください先生は。

安 あ、私の先生ですか。もう独学。

石川 教育を誰かにしていただいたということはないんですか。

安 いなかつたんです。

石川 そうですか。韓国史自体が少なかつたんですかね。

水谷 先生の同級生の方も、皆さんそういう風にして勉強してきたんですか。

安 私の同級生の中では、教員になった人が少ないんです。私も大学に約四、五年、いましたね。私の後輩の中でも、教員になったのは、何人かいますけれども、その人たちもだいたい独学ですね。

今西 韓国の学問つて、逆にいうと、戦前にマルクス主義で経済史をやつた人つて結構北(朝鮮)へ行つた人とかいるでしょ。

安 やつぱり、ちよつとレベルが高い人は、だいたい北朝鮮に行つてます。

今西 行つたでしょ、逃げて行つたというか、北へ行つた人が多くて。しかも朝鮮戦争挟んでいるから、やはり日本より復興が一〇年以上遅れてますよね。そういう意味では、韓国はスタートが遅れてね。だから学問的にもちよつと大変だつただろうと思うんですけどね。

安 韓国でね、やつぱり大学が大学みたいになつたのはね、六〇年代半ば頃以降じゃなかつたんですよかね。それ以前はね、大学あつたんですけども、その教育の中身がね、ほとんど本でしてね。だいたいが独学。だからソウル大学で頭がいい人が集まると独学でも、前に申し上げたでしょ、変な教科書とか、そんな教科書を読んで、それを理解したということ。みんな天才だつた。

今西 誤植だらけで(笑)。

安 だけどその天才にも、限界つてというのが明らかですから。

石川 先生がソウル大学に就職されたのは何年でですか。

安 ええ、六五年。六四年に、大学を卒業してね、修士をとつたんですね。修士をとつて二年経たないうちに、専任講師になつた。

石川 早い。スピード出世ですね。

安 うん。その代わりね、専任講師を長い間

やつてた。七年くらい、専任講師をやつてました。

石川 その時はソウル大学に韓国経済史という講座がすでにありましたか。

安 私が教員になる、その時期にようやくね、教員の中で専門という概念ができたんです。その前の先生はね、何でも教える。

石川 経済原論も教えるし、色んなものも。安 私みたいに韓国経済史で、その科目だけで頑張つてた人は、私が最初じゃないんですかね。私の世代だと。それが、六五年でしょ。七〇年に近くになりますと、アメリカ帰りが「ぼーっ」と(入ってくる)。

石川 本当に経済史分野そのものの先駆者ですね。

安 うん、そういう自覚はないんですけどね(笑)。

石川 実際そうだと思いますよ。

今西 科目を複数教えるつてのは、小樽なんかでも、浜林正夫(一九二五年〜。一橋大学名誉教授。専門はイギリス近代史)さんでも、社会政策だとかを、西洋経済史と一緒に教えてるわけだからね。だから、一科目じゃない(笑)。

石川 昔の先生は、いろいろ教えられたつていう。

今西 今だったら結構小樽なんか厳しいけどね。私なんかは経済史、日本経済史、それから

基礎演習、経済学みたいなもの、そんなの全部持つてるから。ほとんど一〇〇パーセント専門だけでいいつていうのは、もう、京大とか東大とか、ごく限られた大学だけだと思うんだけどね、日本でもね。

石川 先生、崔虎鎮(一九一四〜二〇一〇年。韓国経済学会会長、延世大学校商経大学学長などを歴任)先生は、先生よりも、前の世代にあたられますか。

安 もう、亡くなつたでしようね。

石川 あ、そうですね。

安 今、(生きて)おられれば、九五(編注.. 実際には数え年で九六歳にて逝去)。

石川 もう九〇をゆうに超えておられると思います。ご健在であられればですけど。

安 うん。あの方はね、九州大学を卒業されたといつてましたけど。

石川 はい。九大の経済学部を。

安 あの方はね、いち早く大学の教員になりましたね。

石川 ええ。ソウル大学ですか。

安 うん。二九歳でソウル大学の教員になつたんじゃないかな。歳は私と同じです。私も二九(の時に教員になつた)だつたんですからね。

石川 崔虎鎮先生とは直接のご関係はおありじゃなかつたですか。

安 うん。

石川 あ、そうですね。だいぶ学問的にも違いますよね。傾向も、関心も違うと思いますので。

安 早く（に韓国経済学会の）元老になって〔編注：若くして韓国経済学長（一九五六〜七八年）を務めたことなどを指すか〕ね、行政関係に勤めるんだとか。だけどあの方そういう〔編注：行政関係のことか：実際、政府から何度か大臣ポストの誘い等があったのを断つたという〕の勉強しなかつたんですね。

## 二・五 中村哲先生の話

今西 中村（哲）さんは、真面目な先生でした、すごくてね。

安 中村先生はね、きちんと講義なさつたんですよ。

今西 ええ、それはものすごく真面目ですよ。

安 中村先生の書物を読んでみますとね、非常に中身が充実してますね。

今西 すごい生真面目に講義ノートを作つてやつておられましたね。

安 だから中村先生は、マルクス経済学、特にマルクス経済史では、ご自分の理論を開拓した人じゃないんですか。新しい理論を作つた人じゃないんですか。

今西 ええ、「小農経営論」とかね。

安 それとね、この論理が非常に高い論理性。

どのくらい高いかといいますとね、これは先生の書物だけを読んでもそんなこと（難解で）分かつたもんじゃないんだけど、書物を読んだ上で色んな話を聞いていますとね、マルクス経済学がもつてる、「非論理性」をちゃんとつかんでいる。すごいわね。それがすごい。

今西 若い時の実証がまたすごくてね。私が接したのは、三〇代から四〇代の時だけど実証分析がすごくて。

安 実証も実証だけどね、中村さんの実証は非常にレベルが高い。私、中村さんの書物を読んだ事実がないことを、見出すことができなかった。客観的な事実めちゃんと根拠置いてる。

今西 中村先生は、もうすごい努力家ですよ。

勉強時間がすごい。若い頃はもう、私が先生に接した時は、一日一三時間は仕事してたからね（笑）。家帰つてきて、鞆を置いて、自分の部屋入つて、計算機使つて、統計の処理だけずつとやつて、もう全然出てこない。ご飯食べたらずぐ部屋戻るといふ。奥さんには、奥さんが何か欲しいと言つたら、ノーベル賞取つたら買ってやるとか言つて。「ノーベル史学賞」がないつて奥さんずつと知らなかつた。私が行くまでは。人間つてあれだけ努力かなんかしたら、ノーベル賞もらえるんだらうつて奥さんは信じていた（笑）。

安 石井（寛治）さんと中村さんはね、その

ところすごい。

今西 石井先生もすごいですけどね。石井さんも、奥さん連れてイギリス行つたのに、奥さんに手伝わせて、ジャーディン・マセソン商会（一九世紀中国の広州に設立。主にアヘンの密輸とイギリスへの茶の輸出を行い、アヘン戦争にも深く関与）の帳簿の整理ばかりやつたでしよ、毎日（笑）。イギリス行つたら奥さんは、演劇にぐらい連れて行つてくれるだろうと思つたのに、朝から帳簿の整理を手伝わされた。

安 私にも、中村さんの影響がずつとあつて、結局私は毛沢東の理論が非常に大きいところとが分かりました。みんな、そんなところですよ。これはね、比べたら矛盾だとか、色んなところに毛沢東理論があるのが非常に大きい。論理みたいだけどね、よく考えてみますとこれは論理じゃないと。

今西 中村さんつて偏見とか予断を許さないところがあつて、物事を「まず客観的に見ろ」というところから始めるという。だから非常に「素直に物を見る」ということを教えてくれる人ですね、最初にね。

史料調査もすごかつたし。夏なんかもう、農村調査ずつと行つて、史料探してきて、もう顔中真っ黒で、腕時計のとこだけ白いという（笑）。まあ、堀さんもちよつと似てるという



今西 一 (いまにし・はじめ)

1948年、京都生まれ。龍谷大学文学部をへて79年、立命館大学大学院文学研究科修士課程修了。90年、京都大学より農学博士。92年から小樽商科大学助教授、95年から教授・特任教授を務め、2014年に退職。2014年から大阪大学招へい教授。

著作は『近代日本成立期の民衆運動』（柏書房、1991年）、『文明開化と差別』（吉川弘文館、2001年）、『遊女の社会史』（有志舎、2007年）など多数。

今西 一 (いまにし・はじめ) 1948年、京都生まれ。龍谷大学文学部をへて79年、立命館大学大学院文学研究科修士課程修了。90年、京都大学より農学博士。92年から小樽商科大学助教授、95年から教授・特任教授を務め、2014年に退職。2014年から大阪大学招へい教授。著作は『近代日本成立期の民衆運動』（柏書房、1991年）、『文明開化と差別』（吉川弘文館、2001年）、『遊女の社会史』（有志舎、2007年）など多数。

るけどね。目が見えなくなるまでやっている。安 堀さんもね、実証強いね。今西 そうですね。植民地研究をやるっていうてね、コンピュータで「植民地」っていうのを一〇万回ひいたっていうんだけど。「植民地」と関わることを全部調べようという(笑)。そんなことやつてたら、目つぶれると言つてた。だけれど、先生のお弟子さんたちも優秀ですよ、李栄薫(イ・ヨンフン、一九五一年)。ソウル大学校社会科学大(ソウル)学教授。韓国経済史)さんをはじめみんな。金洛年(キム・ナクソン、東国大学校社会科学大学教授。韓国経済史)さんもそうだけど。安 そうですか：韓国みたいな社会は、経済的だとか物質的だとか、そんなところでは、先進国に追いつくことはそんなに難しくないんだけど、やっぱり学問はね、難しい。簡単にいかな

い。今西 でも先生たちの努力で、韓国経済史がやつぱりすごくレベルが上がりましたよ。別にお世辞で言うわけじゃなくてね。それはもう、中村さんたちとの共同研究とかね。それが大きい。安 中村さんはね、もう歳が歳で(なぜ私が)マルクス主義をなくしたか、理解できないでしょうね。私の経験ではね、毛沢東の理論もそうですし、マルクス主義もそうだし。やつぱりね、形式論理に及ばないんです。数学だとか形式論理。まあ、それまでの限界が大きいんですけどもね。やつぱり、弁証法というのはね、もちろん正しく使えば使えるんだけど、運動の論理でしょ。今西 弁証法つてのは、矛盾がないとダメですもんね。安 しょつちゆう前提が変わつちゃうんだから。前提が変わつてしまつたら同じこと、ずっと主張することできないでしょ(笑)。

今西 でも中村さんのマルクス主義もずいぶん変わったんでしょ(笑)。今西 でも中村さんのマルクス主義もずいぶん変わったんでしょ(笑)。今西 議論する時にいつも実証を片っぽに置きますからね。それと平凡な事実から非常に非凡な結論を見出すことができるから。やつぱり、ああいう能力はすごいですね。そろそろ時間ですね。安 先生、今日、先生いらしていただいて本当にありがとうございました。今西 いえ、とんでもない。私こそありがとうございます。もう貴重な話を伺わせていただきました。石川 ありがとうございます。

(本研究は、科学研究費一般研究(A)「帝国日本の移動と動員」(研究代表者今西一)の成果の一部である)